

F-100 Digital Piano

取扱説明書

このたびは、ローランド・デジタル・ピアノ F-100 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P. 2)と「使用上のご注意」(P. 4)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要ときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

本体の組み立てかた  6 ページ

演奏する前に  10 ページ

内蔵曲を聴いてみましょう  13 ページ

演奏してみましょう  15 ページ

目次  9 ページ

索引  39 ページ

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

- この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



- この機器およびACアダプターを分解したり、改造したりしないでください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。



- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 雨に濡れる場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



- この機器を、ぐらついた台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。



- ACアダプターは、必ず付属のものを、AC 100 Vの電源で使用してください。



警告

- 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。



- この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。



⚠ 警告

- 次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランド・サービスに修理を依頼してください。⚠

- AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。⚠

- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。⊘

- 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。⊘

- 外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。⚠

⚠ 注意

- この機器と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。⚠

- AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。⚠

- 定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。⚠

- 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。⚠

⚠ 注意

- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。⊘

- 濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。⊘

- この機器を移動するときは以下のことを確認した後、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落とさないように注意してください。⚠
 - 機器本体とスタンドを固定しているネジがゆるんでいないか、確認する。ゆるんでいる場合は、しっかり固定する。
 - 電源コードを外す。
 - 外部機器との接続を外す。
 - 鍵盤フタを外す。
 - 譜面立てを外す。

- お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください（10 ページ）。⚠

- 落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。⚠

- フタの開け閉めは、指などをはさまないように、注意して行なってください（11 ページ）。小さいお子様が使用されるときは、大人のかたが介添えてください。⚠

- キャップ、ネジ、コード・クランプを外した場合は、小さなお子様が悪く誤って飲み込んだりすることのないようお子様の手の届かないところへ保管してください。⚠

使用上のご注意

2、3 ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

電源について

- 本機を冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなどのインバーター制御の製品やモーターを使った電気製品が接続されているコンセントと同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズにより本機が誤動作したり、雑音が発生する恐れがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターを長時間使用すると AC アダプター本体および、F-100 本体の DC In 端子付近が多少発熱しますが、故障ではありません。
- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。また、至近距離から照らす照明器具（ピアノ・ライトなど）や強力なスポット・ライトで長時間同じ位置を照射しないでください。変形、変色することがあります。
- 故障の原因になりますので、雨や水に濡れる場所で使用しないでください。
- 本機の上にゴム製品やビニール製品などを長時間放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 本機の上に水の入った容器（花瓶など）、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、すみやかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 鍵盤の上に物を置いたままにしないでください。発音しなくなるなどの故障の原因になります。
- 本機にシールなどを貼らないでください。特に粘着力の強いものは、はがす際に外装の仕上げを損なうことがあります。（本機に付属のシールには弱粘性のものを使用しています。）

お手入れについて

- お手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、強く絞った布で汚れを拭き取ってください。木目にそって全体を均一の力で拭きます。同じ所ばかり強くこすると、仕上げを損なう恐れがあります。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

- お客様がこの機器や AC アダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

その他の注意について

- 本体メモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- この機器は多少発熱することがありますが、故障ではありません。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- 接続には、当社ケーブル（PCS シリーズなど）をご使用ください。他社製の接続ケーブルをご使用になる場合は、次の点にご注意ください。
 - 接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。本機との接続には、抵抗入りのケーブルを使用しないでください。音が極端に小さくなったり、全く聞こえなくなる場合があります。ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。

※ MIDI は社団法人 音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

はじめに

このたびは、ローランド・デジタル・ピアノ F-100 をご購入いただき、まことにありがとうございます。

本機を存分にお楽しみいただき、いつまでも良い状態でご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みいただけるようお願い申し上げます。

主な特長

優しい木目調、コンパクトなデザイン

リビングや子供部屋にも合うシンプルなデザイン、ナチュラルな木目調仕上げ。

奥行き 約 300 mm とコンパクトで、家具と並べてもすっきり納まります。

本格的なピアノ演奏

高品位なコンサート・グランドピアノの音色と、低音域は重く高音域は軽く、よりピアノらしいタッチが得られるプログレッシブ・ハンマー・アクション鍵盤で本格的なピアノ演奏を楽しむことができます。また、本体に固定されたソフト・ペダルとダンパー・ペダルで本格的な演奏が可能です。

ハイ・パフォーマンス 2BOX スピーカー

左右のスピーカー・ボックスが独立している 2 ボックス構造のスピーカーにより、クラスを超えた音量感と高音質を実現しました。

置く場所に合わせて、スピーカーを背面に向けることもできます。

豊かな音楽性を育てる練習支援機能

メトロノーム機能はもちろん、自然なリズム感を養う「リズム機能」、自分の演奏を録音して確認することのできる「2トラック・レコーダー」など、電子ピアノならではのピアノ・レッスンが可能です。

幅広いジャンルに使える多彩な音色

ピアノの音色を始め、いろいろなジャンルに使える 20 音色を内蔵しています。

高品位なリバーブを搭載

ホールで弾いたような臨場感が得られるリバーブを搭載しています。

60 曲のピアノ曲を内蔵

リスニングにもレッスンにも使えるクラシックのピアノ曲を内蔵しています。

指の強さに合わせた鍵盤タッチの切替

演奏者の指の強さに応じて鍵盤タッチを切り替えることができます。

内容物の確認

本製品には F-100 本体の他に以下のものを付属しています。

万一不足しているものがある場合には、ご購入いただいた販売店へご相談ください。

☐ F-100 本体（組み立てについては P. 6 をご覧ください。）

☐ サイド・パネル 右

☐ サイド・パネル 左

☐ スピーカー・ボックス

☐ ペダル・ボード

☐ 取り付けネジ× 10

☐ キャップ × 10（＋予備分）

☐ コード・クランプ

☐ 鍵盤フタ・ホルダー

☐ AC アダプター、AC コード

☐ 鍵盤フタ

☐ 譜面立て

☐ ヘッドホン

☐ 取扱説明書（本書）

☐ テンポ設定シート

☐ 保証書

本体の組み立てかた



組み立て作業は必ず2人で行ってください。

本機を移動するときは、水平に持ち上げるようにし、手を挟んだり、足の上に落とさないよう、十分に注意してください。

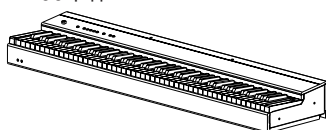
必ず、F-100 本体の背面を下にして、全体を横にした状態で作業してください。

■ 部品の確認

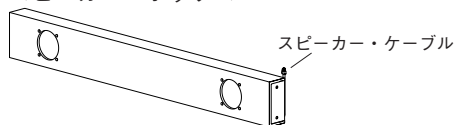
組み立てる前に、部品がそろっていることを確認してください。

また、プラス・ドライバー（No.2）をご用意ください。

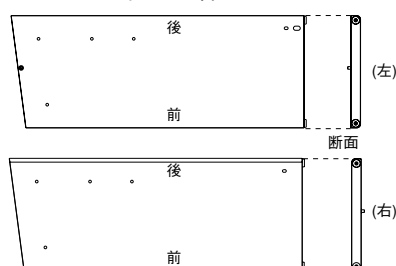
① F-100本体



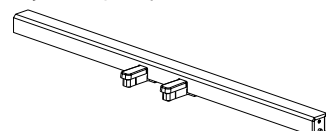
② スピーカー・ボックス



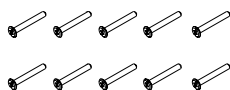
③ サイド・パネル 左右



④ ペダル・ボード



⑤ 取り付けネジ × 10



⑥ キャップ × 10

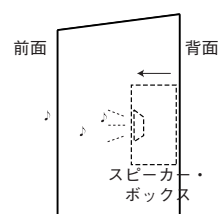
(予備も含め多めに入っています)



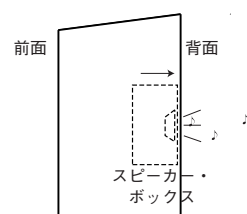
メモ

スピーカー・ボックスは背面に向けて取り付けることもできます。本体の背面側に聴き手がいる場合など、聴き手の方向にスピーカーを向けることができます。

通常の向き



背面に向けた場合



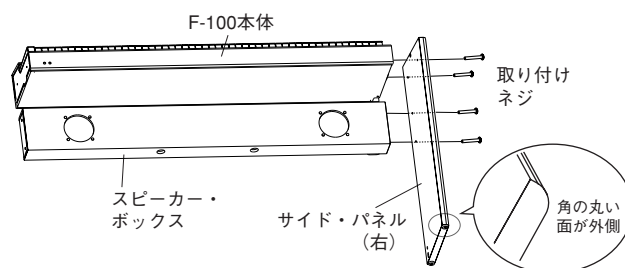
■ 組み立て手順

- 最初はネジをゆるめに締めて全体を組みます。そして、ゆがみを補正しながら締め付けるとうまく組み上げることができます。
- 組み立てるとき、サイド・パネルに傷がつかないように、お取り扱いにご注意ください。

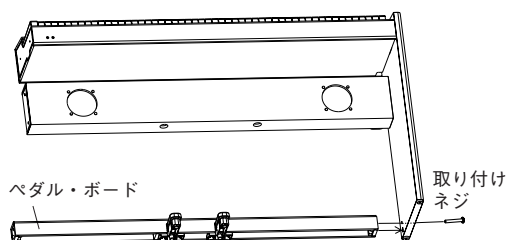
組み立てるときは、F-100 本体の背面を下にして、全体を横にした状態で作業してください。

1. 片方のサイド・パネルを F-100 本体とスピーカー・ボックスにネジで固定します（4 カ所）。

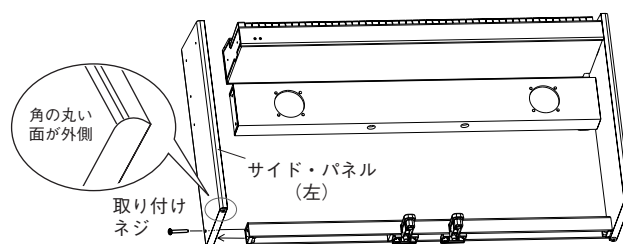
スピーカー・ボックス背面のスピーカー・ケーブルが、右側（F-100 本体の Power スイッチがある側）にくるように取り付けます。



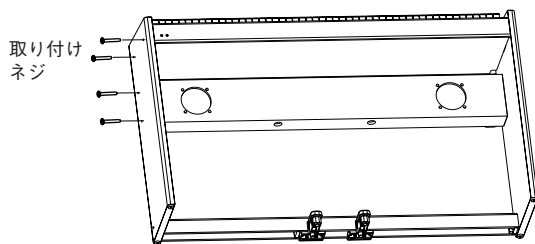
2. サイド・パネルの穴にペダル・ボードの突起を合わせ、ペダル・ボードをネジで固定します（1 カ所）。



3. もう片方のサイド・パネルの穴をペダル・ボードの突起に合わせ、サイド・パネルをネジでペダル・ボードに固定します（1 カ所）。

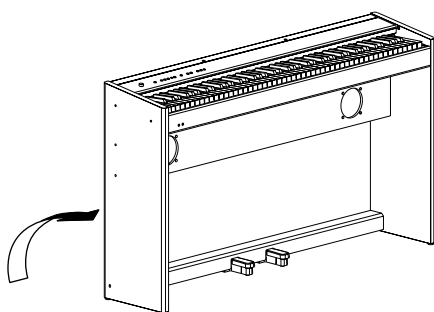


4. サイド・パネルを F-100 本体とスピーカー・ボックスにネジで固定します（4 カ所）。



5. 全体をおこします。

全体をおこすときは、スピーカー・ボックスと F-100 本体の中央付近を持って、静かにおこしてください。



全体のカタツキがあるときは・・・

全体をおこしてカタツキがあるときは、もう一度ネジを締め直します。

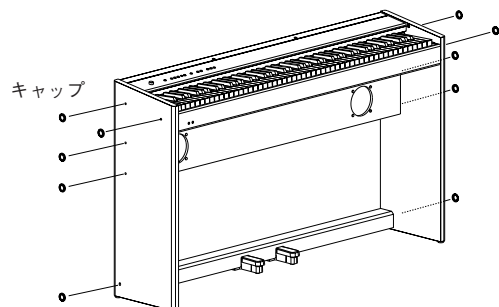
ネジを締め直すときは、上から順に締め直してください。そのとき、ネジを少しゆるめてから締め直すとういでしょう。

ペダルを安定させるために・・・

ペダル・ボードを固定しているネジを一度ゆるめます。

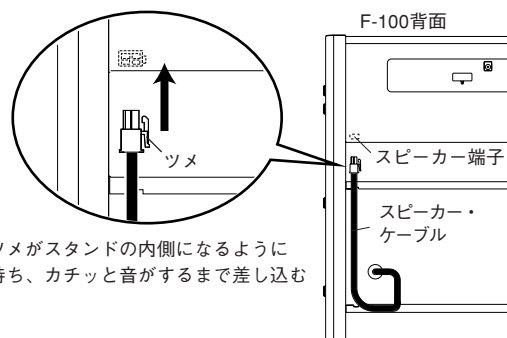
ペダルを踏み込み、ペダルが接地面に固定されていることを確認したら、ネジをしっかり締め直してください。

6. ネジの頭にキャップを取り付けます（左右各 5 カ所）。



7. 図のように、スピーカー・ボックス背面のスピーカー・ケーブルを F-100 本体のスピーカー端子に接続します。

スピーカー・ケーブルは、カチッというまで差し込んでください。

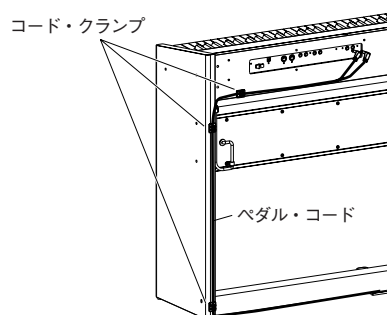


ツメがスタンドの内側になるように持ち、カチッと音がするまで差し込む

8. ペダル・コードを Pedal [Damper] 端子と [Soft] 端子に接続します。

茶色のプラグを Damper 端子、黒のプラグを Soft 端子に接続します。

9. 必要に応じて、コード・クランプを図のように貼り付け、ペダル・コードを固定します。



本機を移動する場合

電源コード、ケーブル類、譜面立て、鍵盤フタを F-100 からはずします。

そして、水平に持ち上げ、手を挟んだり、足の上に落とさないように注意して運んでください。

ペダルの安定を確認し、必要に応じて調節してください。

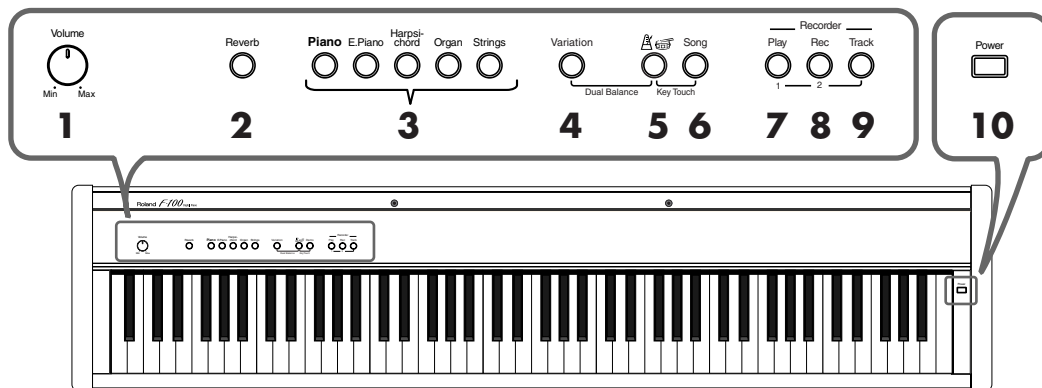
分解する場合

組み立て手順 1～8 の逆の順序で分解してください。

スピーカー・ボックスの向きを変える場合

必ず、全体を分解してから、スピーカー・ボックスの向きを変えて組み立て直してください。

各部の名称と働き



1. 【Volume（音量）】つまみ

音量を調節します（P. 12）。

2. 【Reverb（リバーブ）】ボタン

音に響きを加えます（P. 17）。

3. 音色ボタン

次の5つのボタンをまとめて音色ボタンと呼びます。鍵盤で演奏する楽器の音を選びます（P. 15）。

【Piano（ピアノ）】ボタン

【E.Piano（エレクトリック・ピアノ）】ボタン

【Harpsichord（ハープシコード）】ボタン

【Organ（オルガン）】ボタン

【Strings（ストリングス）】ボタン

4. 【Variation（バリエーション）】ボタン

音色ボタンと組み合わせて、鍵盤で演奏する楽器の音を選びます（P. 15）。

5. 【（メトロノーム／リズム）】ボタン

内蔵のメトロノームやリズムを鳴らします（P. 17、P. 20）。

6. 【Song（曲）】ボタン

内蔵曲を再生します（P. 13）。

Recorder（レコーダー）

7. 【Play（再生）】／【1】ボタン

録音した演奏を再生します。

また、【Track（トラック）】ボタンを押したとき、トラック【1】ボタンとして働きます（P. 14）。

このボタンと次の【2】ボタンをまとめてトラック・ボタンといいます。

8. 【Rec（録音）】／【2】ボタン

演奏を録音します（P. 21）。

また、【Track（トラック）】ボタンを押したとき、トラック【2】ボタンとして働きます（P. 14）。

9. 【Track（トラック）】ボタン

このボタンを押しながら、【1】または【2】ボタンを押して、再生、録音のオン／オフをします（P. 14、P. 24）。

10. Power スイッチ

電源をオン／オフします（P. 12）。

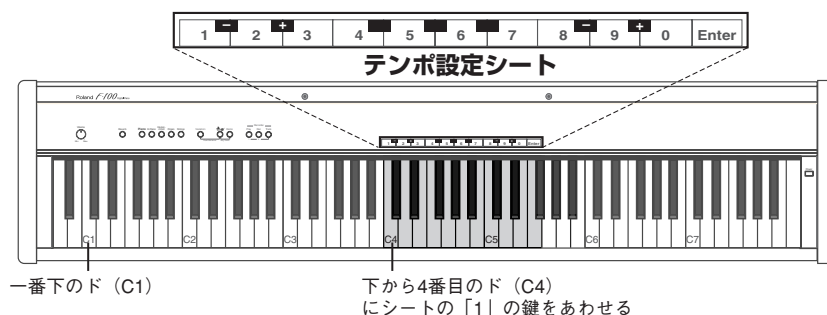
テンポ設定シート（付属）を貼る

必要に応じて、付属のテンポ設定シートを貼ります。

テンポ設定シートは、メトロノームのテンポを設定するときに使用します。

図の位置に、テンポ設定シートを貼りつけます。

メトロノームの操作については、「メトロノームを鳴らす」（P. 17）をご覧ください。



目次

安全上のご注意.....	2
使用上のご注意.....	4
はじめに	5
主な特長	5
内容物の確認	5
本体の組み立てかた	6
部品の確認	6
組み立て手順	6
各部の名称と働き	8
テンポ設定シート（付属）を貼る	8
演奏する前に	10
AC アダプターの接続	10
譜面立てを取り付ける	10
ペダルについて	10
鍵盤フタの取り付け	11
鍵盤フタ・ホルダーの取り付けかた	11
電源を入れる	12
電源を切るときは	12
音量を調節する	12
ヘッドホンをつなぐ	12
内蔵曲を聴いてみましょう	13
内蔵曲を再生する／止める	13
曲を選んで再生する	13
片手ずつ再生する	14
演奏してみましょう	15
演奏する楽器の音を選ぶ	15
2つの楽器の音を重ねる（デュアル演奏）	16
音に響きをつける（リバーブ効果）	17
メトロノームを鳴らす	17
テンポを変える	18
メトロノームの拍子を変える	19
音量を調節する	19
リズムを鳴らす	20
演奏を録音してみましょう	21
演奏を録音する	21
リズムに合わせて録音する	22
曲に合わせて録音する	23
トラックを選んで録音をやり直す	24
録音した演奏を消去する	25
指定したトラックの演奏を消去する	25
曲を消去する	25

便利な機能	26
鍵盤のタッチ感を変える	26
ボタンが効かないようにする （パネル・ロック）	26
弾く鍵の位置を変えずに移調する（キー・トランスポーズ）	27
音の高さを調節する （マスター・チューニング）	27
基準ピッチを上げる／下げる	27
基準ピッチを 440.0 Hz にする	28
基準ピッチを 442.0 Hz にする	28
デュアル演奏の音量バランスを変える	28
リバーブ効果の深さを変える	28
リバーブ効果の深さを確認する	28
オーディオ機器との接続	29
接続端子について	29
接続のしかた	29
F-100の音をオーディオ機器のスピーカーから鳴らしたり、 カセット・テープ等に演奏を録音するとき	29
オーディオ機器の音をF-100のスピーカーで鳴らすとき	29
MIDI 機器との接続	30
接続端子について	30
接続のしかた	30
外部 MIDI 機器と接続したときの注意点	31
F-100の鍵盤と内部音源を切り離す（ローカル・オン／オフ）	31
ローカル・オン／オフの切り替え	31
すべてのMIDIチャンネルで受信する（オムニ・オン／オフ）	31
オムニ・オン／オフの切り替え	31
MIDIチャンネルの設定	32
録音した演奏を送信する	32
故障かな？と思ったら	33
内蔵曲一覧	34
MIDI インプリメンテーション・チャート	36
主な仕様	37
鍵盤に割り当てられた機能一覧	38
メトロノーム／リズムの設定	38
その他の機能	38
索引	39

演奏する前に

AC アダプターの接続

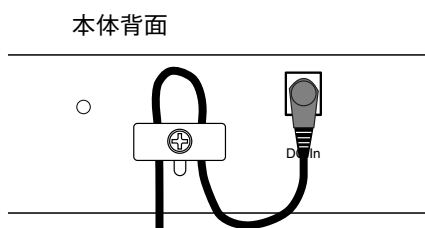
ご注意

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

1. 付属の AC アダプターと電源コードを接続します。



2. AC アダプターを、本体背面の DC In 端子に接続します。
3. 図のように、AC アダプターのコードをコード・フックに引っかけるようにして固定します。



4. 電源コードを、コンセントに接続します。

必要に応じて、AC アダプターのコードを、コード・クランプ (P.7) で固定してください。

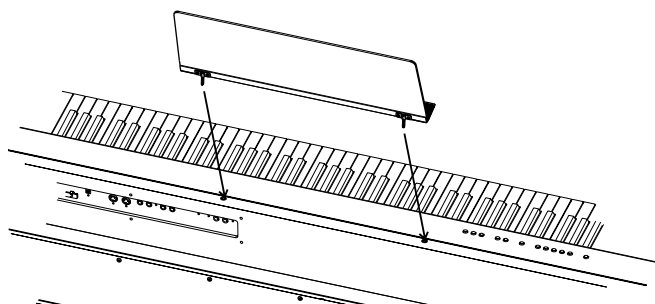
ご注意

AC アダプターのコードは図のようにコード・フックに固定してください。誤ってコードを引っ張ってしまっても、プラグが抜けて電源が切れてしまうことや、DC In 端子に無理な力が加わることを防ぐことができます。

コードを固定してある場合でも、強い力が加わったときにはコードが傷んだり切れてしまうことがあります。不用意にコードを引っ張ったり、強い力が加わらないように注意してください。

譜面立てを取り付ける

1. 譜面立てを下図のように 2 つの穴に差し込みます。



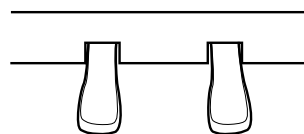
ご注意

本機を移動するときには、危険防止のため、必ず譜面立てを外してください。

ご注意

譜面立てに無理な力を加えないでください。

ペダルについて



ソフト・ペダルの働き

音に柔らかさを与えたいときに使います。
ソフト・ペダルを踏んだまま鍵盤を弾くと、通常同じ強さで弾いたときの音よりも柔らかい音が出ます。
アコースティック・ピアノの左側のペダルと同じ働きです。
音色によっては、音の変化が小さいものがあります。

ダンパー・ペダルの働き

音に余韻を与えたいときに使います。
ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音が切れずに長い余韻が続きます。
アコースティック・ピアノの右側のペダルと同じ働きです。

ご注意

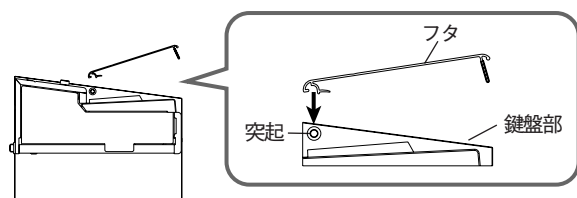
電源を入れた状態で本体からペダル・コードを抜くと、ペダルの効果がかかったままになることがあります。
ペダル・コードの抜き差しは、必ず、本体の電源を切った状態で行ってください。

鍵盤フタの取り付け

ご注意

鍵盤フタの取り付け、開け閉めは、必ず両手でおこなってください。また、隙間に指などははさまないように、十分ご注意ください。

1. 付属の鍵盤フタを図のように取り付けます。



2. 鍵盤フタを開けるときは、両手で鍵盤フタを持ち上げます。
3. 鍵盤フタを閉めるときは、両手で静かに鍵盤フタをおろします。

ご注意

小さなお子さまが使用される場合は、大人の方が介添えてください。

ご注意

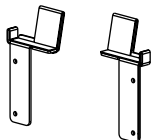
本体の移動は、危険防止のため、必ず鍵盤フタははずしてください。はずした鍵盤フタは、転倒しないよう十分ご注意ください。

■ 鍵盤フタ・ホルダーの取り付けかた

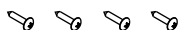
付属の鍵盤フタ・ホルダーを取り付けると、鍵盤フタを取りはずして、置いておくことができます。

部品の確認

鍵盤フタ・ホルダー (左右)



取り付けネジ×4

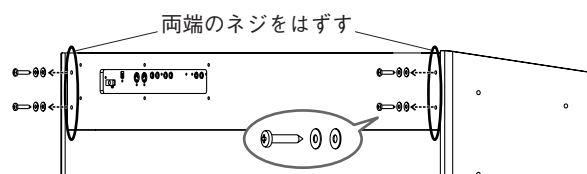


取り付けかた

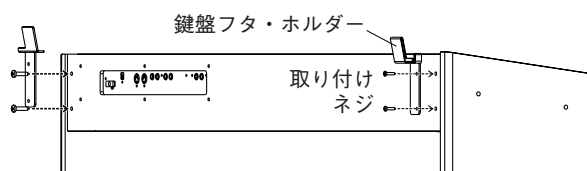
1. 本体背面の両端のネジ4本をはずします。

ご注意

はずしたネジは、紛失しないようご注意ください。鍵盤フタ・ホルダーを使わないときは、はずしたネジを本体背面に取り付けてください。

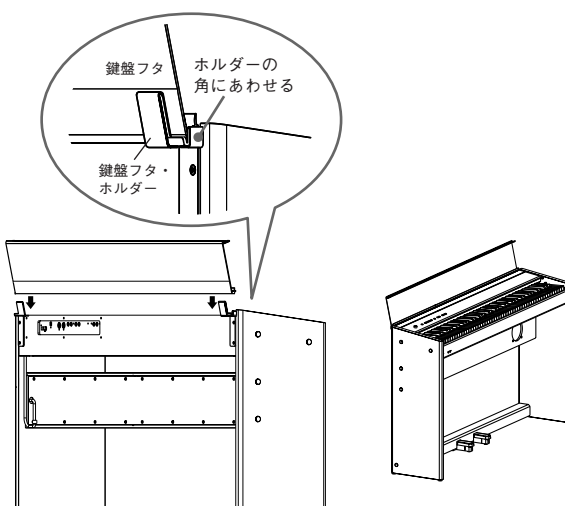


2. 鍵盤フタ・ホルダーを付属の取り付けネジで本体背面に固定します。(4カ所)



鍵盤フタの置きかた

図のように、鍵盤フタ・ホルダーに鍵盤フタを静かにのせます。



ご注意

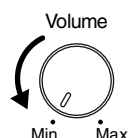
鍵盤フタを置いた状態で、鍵盤フタによりかかったり、無理な力を加えないでください。

電源を入れる

ご注意

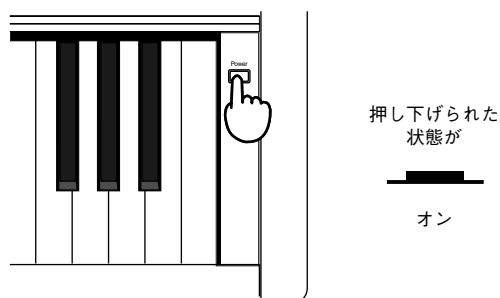
正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

1. [Volume (音量)] つまみで音量を最小にします。



2. [Power (電源)] スイッチを押して、電源を入れます。

数秒後に鍵盤を弾いて音を出せるようになります。
適当な音量に調節してください。

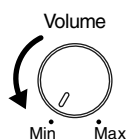


ご注意

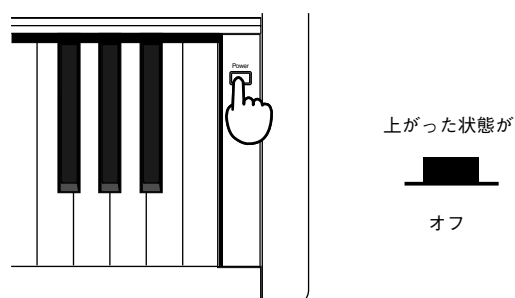
この機器は回路保護のため、電源をオンしてからしばらくは動作しません。

■ 電源を切るときは

1. [Volume (音量)] つまみで音量を最小にします。

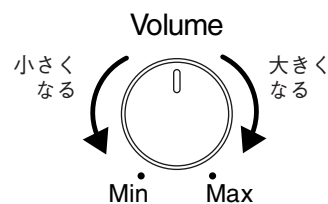


2. [Power (電源)] スイッチを押して、電源を切ります。



音量を調節する

1. [Volume (音量)] つまみで音量を調節します。

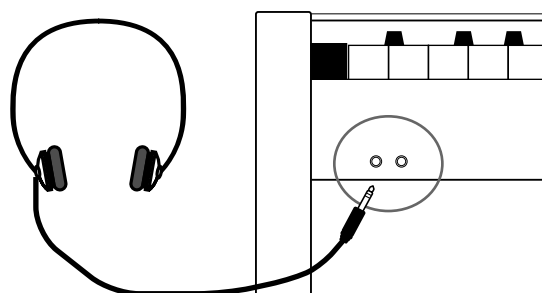


ご注意

音量を上げすぎると、音がひずむことがあります。適当な音量でお楽しみください。

ヘッドホンをつなぐ

F-100 にはヘッドホン端子が2つあります。二人で同時にヘッドホンを使用することができますので、レッスンや連弾曲の演奏に便利です。また、夜間でも周囲を気にせずに演奏を楽しむことができます。



1. [Volume (音量)] つまみで音量を最小にします。
2. ヘッドホン端子のどちらかにヘッドホンを接続します。
3. [Volume (音量)] つまみで音量を調節します。

本体のスピーカーからは音が出なくなります。ヘッドホンからのみ音が聞こえます。

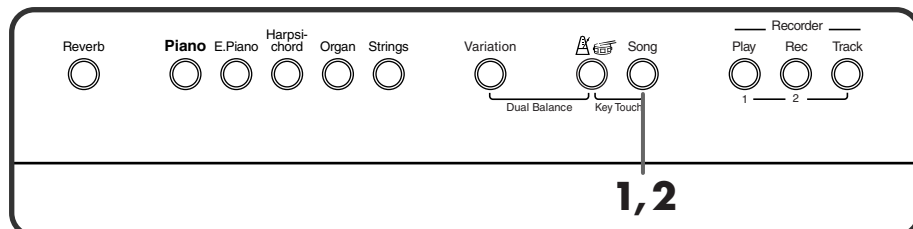
メモ

ヘッドホンはステレオ・ミニ・プラグ・タイプのものをお使いください。

内蔵曲を聴いてみましょう

F-100 には 60 曲のピアノ曲が内蔵されています。

内蔵曲を再生する／止める



曲目については、「内蔵曲一覧」(P. 34) をご覧ください。



内蔵曲を再生すると、リバーブ効果 (P. 17) が自動でオン (ボタンのランプが点灯) になります。



[Song (曲)] ボタンを押すと、前回選んだ曲から順に再生されます。



再生中の曲のテンポを変えることができます。操作については、「テンポを変える」(P. 18) をご覧ください。



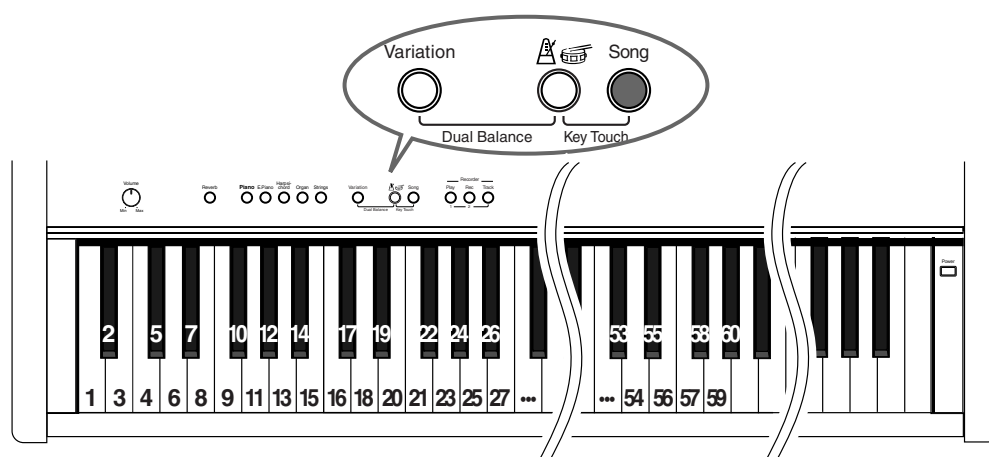
内蔵曲の再生中にリズム (P. 20) を鳴らすことはできません。

1. [Song (曲)] ボタンを押して、ランプを点灯させます。
順番にすべての曲が再生されます。最後の曲まで再生すると、また 1 曲目に戻って再生が始まります。
2. 内蔵曲の再生を止めるときは、[Song (曲)] ボタンを押して、ランプを消灯させます。
内蔵曲が止まります。

■ 曲を選んで再生する

好きな内蔵曲を選んで聴いてみましょう。

1. [Song (曲)] ボタンを押しながら、再生したい内蔵曲に対応する鍵を押します。
内蔵曲は、鍵盤の 1 番左側から順に割り当てられています。



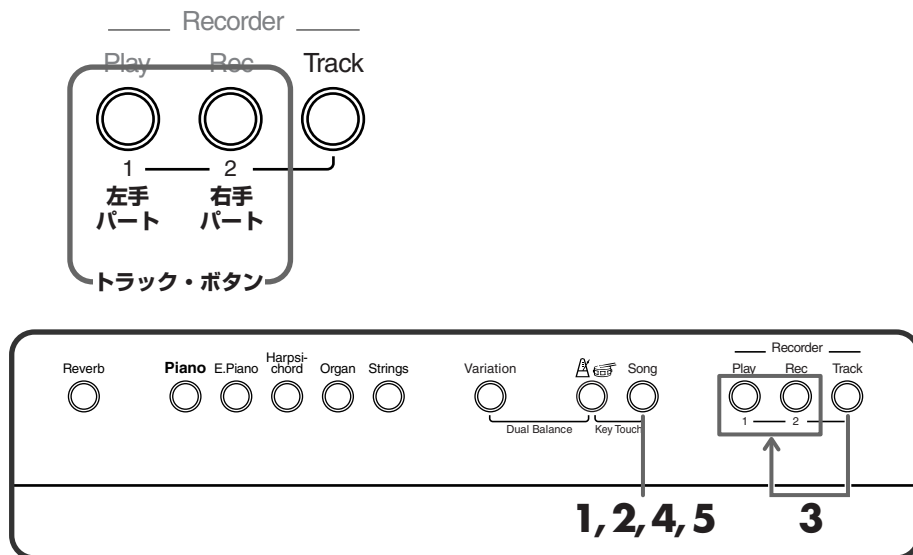
[Song (曲)] ボタンのランプが点灯して、選んだ曲から順番に内蔵曲が再生されます。最後の曲まで再生すると、また 1 曲目に戻って再生が始まります。

2. 内蔵曲の再生を止めるときは、[Song (曲)] ボタンを押して、ランプを消灯させます。
内蔵曲が止まります。

■ 片手ずつ再生する

内蔵曲の演奏パートを選んで再生できます。

内蔵曲は、左手の演奏が [1] ボタン、右手の演奏が [2] ボタンに割り当てられています。このように、音が割り当てられる場所を「トラック」といい、[1] ボタンと [2] ボタンをまとめて、「トラック・ボタン」といいます。



1. [Song (曲)] ボタンを押しながら、再生したい内蔵曲に対応する鍵を押します。

曲の再生が始まります。

2. [Song (曲)] ボタンを押して曲を止めます。

3. [Track (トラック)] ボタンを押しながら、[1] または [2] ボタンのいずれか再生しないパートのボタンを押します。

4. [Song (曲)] ボタンを押して、ランプを点灯させます。

操作 1 で選んだ曲が再生されます。

操作 3 で選んだパートの音は鳴りません。

もう一度 [Track (トラック)] ボタンを押しながら、操作 3 で選んだボタンを押して、ボタンのランプを点灯させると、音が鳴るようになります。

このように、[Track (トラック)] ボタンを押しながら [1] または [2] ボタンを押すと、音を消したり、鳴らしたりすることができます。

5. [Song (曲)] ボタンを押すと、曲が止まります。

トラック・ボタンのオン／オフは、再生中の曲が止まるまで有効です。



内蔵曲の演奏パートを選ぶときは、一度内蔵曲を再生してから操作してください。

演奏してみましょう

演奏する楽器の音を選ぶ

ピアノを含めた 20 種類の音色で演奏することができます。

音色は、5つの音色ボタンで選ぶことができます。

各音色ボタンには、4つの音色が割り当てられています。

各音色ボタンの音色は、[Variation (バリエーション)] ボタンで切り替えます。



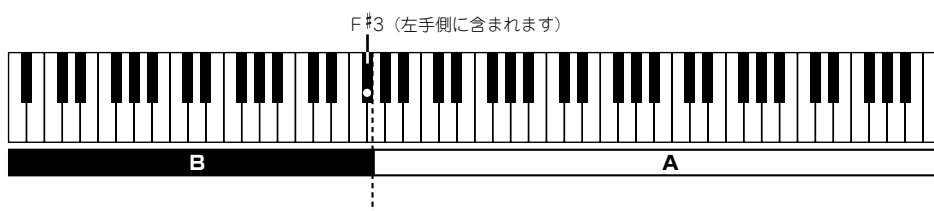
オルガン音色は、ピンテージ・オルガンを再現しているため、一部の音域で音程が折り返しているように聴こえることがあります。

音色ボタン	Piano	E.Piano	Harpsichord	Organ	Strings
音色番号 1 ([Variation] 消灯)	グランドピアノ	ステージ・ローズ	ハープシコード	パイプ・オルガン	ストリングス
音色番号 2 ([Variation] 赤色)	ブライトピアノ	エレクトリック・ピアノ	オルガン・フルート	ロータリー・オルガン	クワイア
音色番号 3 ([Variation] 緑色)	グランドピアノ／ アコースティック・ベース *	ヒブラフォン	クラビ	パイプ・オルガン／ ストリングス *	ストリングス + プラス *
音色番号 4 ([Variation] 橙色)	グランドピアノ／ ストリングス *	ステージ・ローズ／ エレキ・ベース *	ハープシコード／ ストリングス *	ジャズ・オルガン／ ロータリー・オルガン *	フルート／ ストリングス *

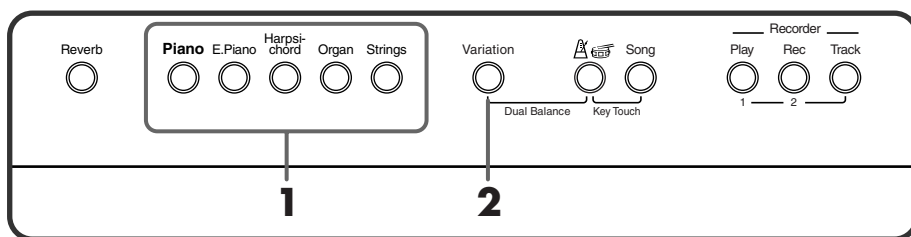
※ ストリングス + プラス：ストリングスとプラスの2つの音色を重ねて演奏できます。

※ A / B：鍵盤を右手側と左手側にわけ、違う音色で演奏できます。

鍵盤右手側は音色 A、鍵盤左手側は音色 B が鳴ります。



電源を入れたときは、グランドピアノが選ばれています。



A/Bの音色を選んでいるとき、ダンパー・ペダルは、鍵盤右側の音にだけ効きます。



A/Bの音色は、音色によって最適な設定になっています。そのため、音色の分かれる位置を境に、オクターブ（音の高さ）の設定が異なることがあります。



デュアル演奏中 (P. 16) は、音色番号 1 または 2 のみを選ぶことができます。音色番号 3、4 が選ばれている音色ボタンでデュアル演奏にすると、その音色ボタンには、音色番号 1 が選ばれます。

1. いずれかの音色ボタンを押します。

選んだボタンのランプが点灯します。

2. [Variation (バリエーション)] ボタンで音色を選びます。

[Variation (バリエーション)] ボタンを押すごとに、ボタンのランプの色が変わり、音色が切り替わります。

鍵盤を弾くと、選んだ音色が鳴ります。

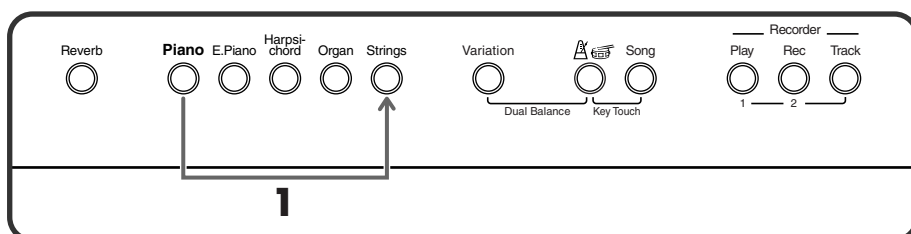
次に同じ音色ボタンを押すと、ここで選んだ音色が鳴ります。

2つの楽器の音を重ねる（デュアル演奏）

1つの音色ボタンを押しながらもう1つの音色ボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することができます。

これをデュアル演奏といいます。

例：ピアノとストリングスの音色を重ねてみましょう



1. [Piano（ピアノ）] ボタンを押しながら [Strings（ストリングス）] ボタンを押します。

両方のボタンのランプが点灯します。

鍵盤を弾くと、ピアノとストリングスの音色が重なって鳴ります。

このとき、[Variation（バリエーション）] ボタンのランプは、選んでいる2つの音色ボタンのうち、右側のボタンの音色を表しています。

[Variation（バリエーション）] ボタンを押して、ランプの色を切り替えると、右側の音色ボタンの音色が変わります。

2. デュアル演奏を解除するときは、いずれかの音色ボタンを押します。

鍵盤を弾くと、押したボタンの音色だけが鳴ります。



デュアル演奏の2つの音色の音量バランスを変えることができます。「デュアル演奏の音量バランスを変える」(P. 28) をご覧ください。

電源を入れたときは、左側の音色ボタンの音が大きくなる設定になっています。

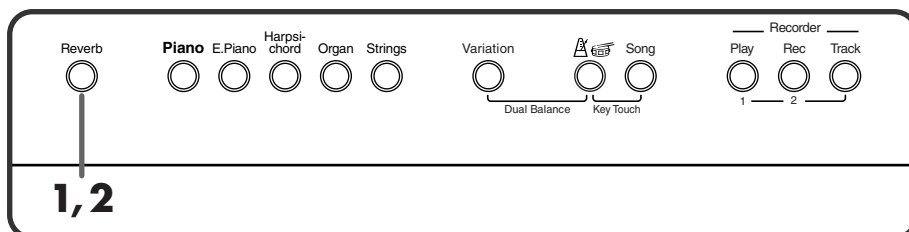


デュアル演奏中は、音色番号1または2のみを選ぶことができます。

音色番号3、4が選ばれている音色ボタンをデュアル演奏にすると、その音色ボタンには、音色番号1が選ばれます。

音に響きをつける（リバーブ効果）

鍵盤で弾いている音にリバーブ効果を加えることができます。リバーブ効果をかけると、コンサート・ホールで演奏しているような心地よい響きが得られます。



内蔵曲を再生すると、リバーブ効果が自動でオン（ボタンのランプが点灯）になります。

1. [Reverb（リバーブ）] ボタンを押してランプを点灯させます。
リバーブ効果がかかります。
2. もう一度 [Reverb（リバーブ）] ボタンを押してランプを消灯させると、リバーブ効果が解除されます。

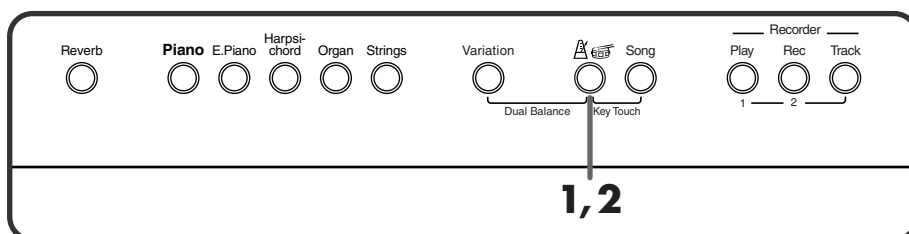


リバーブ効果の深さを変えることができます。「リバーブ効果の深さを変える」(P. 28) をご覧ください。

メトロノームを鳴らす

メトロノームを使ってみましょう。

メトロノームは、曲の再生中には、その曲のテンポや拍子で鳴ります。



1. [A (メトロノーム／リズム)] ボタンを押すと、メトロノームが鳴り始めます。
[A (メトロノーム／リズム)] ボタンのランプは、そのときに選ばれているテンポに合わせて、点滅します。
2. もう一度 [A (メトロノーム／リズム)] ボタンを押してランプを消灯させると、メトロノームが止まります。



リズムが選ばれていると、ボタンを押してもメトロノームは鳴りません。メトロノームの拍子を選び直してください (P. 19)。

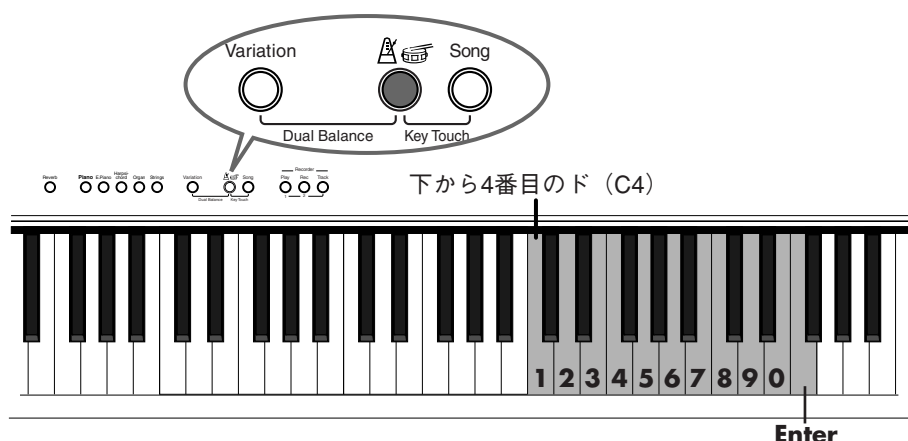
■ テンポを変える

メトロノーム、リズム (P. 20)、再生中の曲のテンポを変えます。

テンポを変えるには、0～9の数値が割り当てられた鍵を押して数値で指定するか、テンポの+/-を鍵で指定します。

♩=20～250の範囲で調節することができます。

例：テンポ 96 を指定する

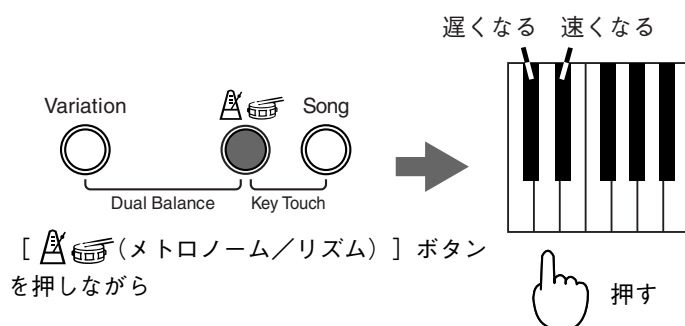


1. [メトロノーム/リズム] ボタンを押しながら、「9」「6」の鍵を順に押して、「Enter」の鍵を押します。

メトロノームのテンポが96になります。

このように、[メトロノーム/リズム] ボタンを押しながら 0～9の数値が割り当てられた鍵 (C4～E5) を押して「Enter」の鍵 (F5) を押すと、数値でテンポを指定することができます。

テンポを1ずつ速くする/遅くする



1. [メトロノーム/リズム] ボタンを押しながらド#を押すとテンポが1遅くなり、レ#を押すとテンポが1速くなります。

[メトロノーム/リズム] ボタンを押したまま鍵を押し続けると、テンポが連続して変わります。

どの位置のド# (C#)、レ# (D#) でもテンポを変えることができます。

[メトロノーム/リズム] ボタンを押したままド# (C#) とレ# (D#) の鍵を同時に押すと、108のテンポまたは、選んでいる曲の元のテンポに戻ります。



本体に付属の「テンポ設定シート」を使うと、数値の割り当てられた鍵がわかりやすくなります。詳しくは、「テンポ設定シート (付属) を貼る」(P. 8) をご覧ください。

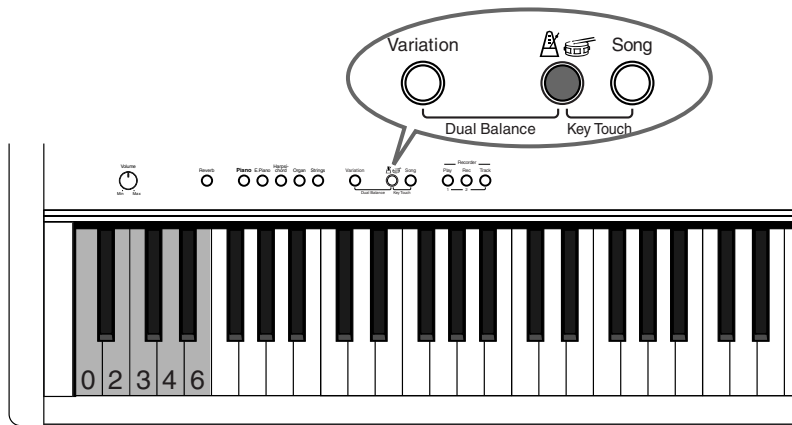


指定できるテンポは、4分音符を1拍としたときの値で、20～250です。
20より小さい値を指定すると、テンポは20に設定されます。
250より大きい値を指定すると、テンポは250に設定されます。

■ メトロノームの拍子を変える

拍子を変えるには、それぞれの拍子が割り当てられた鍵（A0 ～ E1）を押して指定します。

0（弱拍のみ）、2（2 拍子）、3（3 拍子）、4（4 拍子）、6（6 拍子）の 5 種類から選ぶことができます。



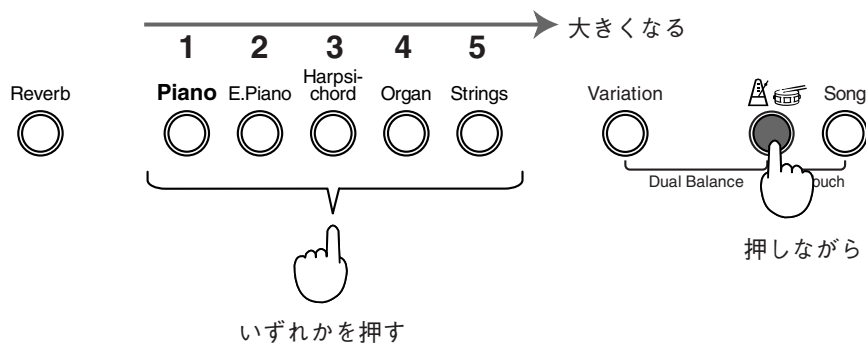
曲の再生中や録音中は、拍子を変えることはできません。

1. [メトロノーム/リズム] ボタンを押しながら、拍子の割り当てられた鍵を押します。

■ 音量を調節する

メトロノームやリズム（P. 20）の音量を 5 段階で調節することができます。

電源を入れたときは、「3」に設定されています。



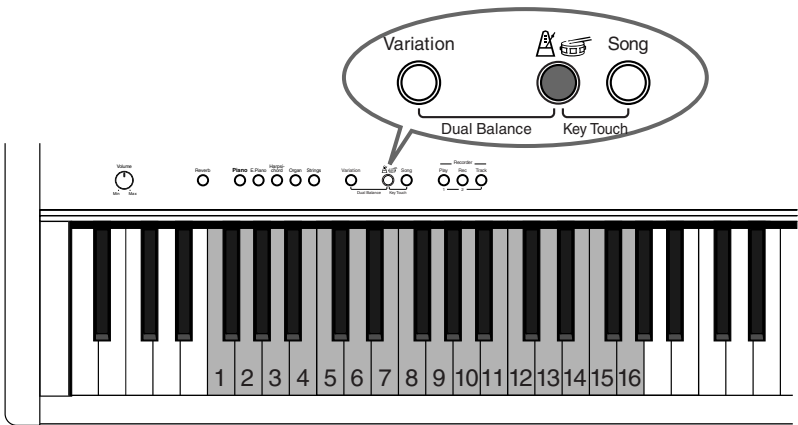
1. [メトロノーム/リズム] ボタンを押しながら、いずれかの音色ボタンを押します。

[メトロノーム/リズム] ボタンを押し続けたときにランプが点滅する音色ボタンが、現在のメトロノームの音量を表しています。

リズムを鳴らす

F-100 には、16 種類のリズムが内蔵されています。
メトロノームの代わりにリズムを鳴らすと、セッションのような感覚で演奏を楽しむことができます。

リズムを変えるには、それぞれのリズムが割り当てられた鍵（F1～G3）を押して指定します。



メトロノームとリズムを同時に鳴らすことはできません。



内蔵曲の再生中にリズムを鳴らすことはできません。
内蔵曲の再生中に

[(メトロノーム／リズム)] ボタンを押すと、メトロノームが鳴ります。

1. [(メトロノーム／リズム)] ボタンを押しながら、リズムの割り当てられた鍵を押します。

No.	鍵盤	リズム	拍子	No.	鍵盤	リズム	拍子
1	F1	16 ビート	4/4	9	G2	ワルツ 2	3/4
2	G1	8 ビート	4/4	10	A2	ジャズ・ワルツ	3/4
3	A1	ロック	4/4	11	B2	マーチ	2/4
4	B1	4/4 シャッフル	4/4	12	C3	タンゴ	4/4
5	C2	4/4 3 連	4/4	13	D3	ボサノバ	4/4
6	D2	スイング 1	4/4	14	E3	マンボ	4/4
7	E2	スイング 2	4/4	15	F3	サンバ	2/4
8	F2	ワルツ 1	3/4	16	G3	ハウス	4/4

2. もう一度 [(メトロノーム／リズム)] ボタンを押してランプを消灯させると、リズムが止まります。

リズムは、メトロノームと同じようにテンポを変えたり（P. 18）、音量を変えることができます（P. 19）。

演奏を録音してみましょう

演奏を簡単に録音することができます。

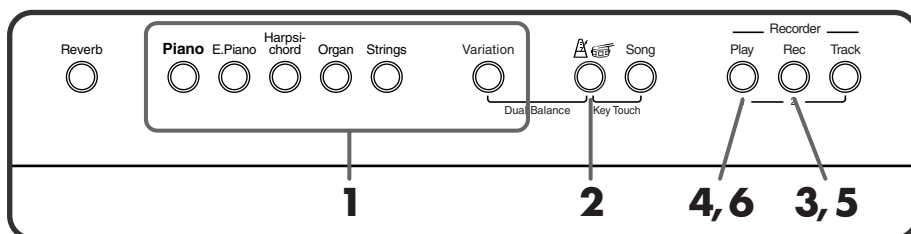
録音した演奏を再生して自分の演奏を聞き返したり、内蔵曲に合わせて演奏を録音することができます。

録音についての注意

- 録音できるのは1曲です。すでに録音した演奏があるときに録音を始めると、以前の演奏は消えてしまいます。
- 電源を切ると、録音した演奏は消えます。演奏を残しておきたいときは、外部オーディオ機器に録音するか (P. 29)、外部 MIDI 機器を使ってフロッピー・ディスクなどに演奏データを保存してください (P. 32)。

演奏を録音する

鍵盤だけの演奏を録音してみましょう。



1. 演奏する音色を選びます (P. 15)。

2. 必要に応じてメトロノームを鳴らします。

メトロノームを鳴らしながら、曲のテンポや拍子を決めてください (P. 18)。

3. [Rec (録音)] ボタンを押します。

[Rec (録音)] ボタンのランプが点灯、[Play (再生)] ボタンのランプが点滅し、録音待機状態になります。

録音を中止するときは、もう一度 [Rec (録音)] ボタンを押します。

4. [Play (再生)] ボタンを押すか、鍵盤を弾くと、録音が始まります。

[Play (再生)] ボタンを押すと、2 小節のカウント音の後、録音が始まります。[Play (再生)] ボタンを押さずに鍵盤を弾き始めても、録音が始まります。このとき、カウント音は鳴りません。

5. [Rec (録音)] ボタンまたは [Play (再生)] ボタンを押すと、録音が止まります。

[Rec (録音)] ボタンと [Play (再生)] ボタンのランプが消灯します。

録音した演奏を聴く

6. [Play (再生)] ボタンを押します。

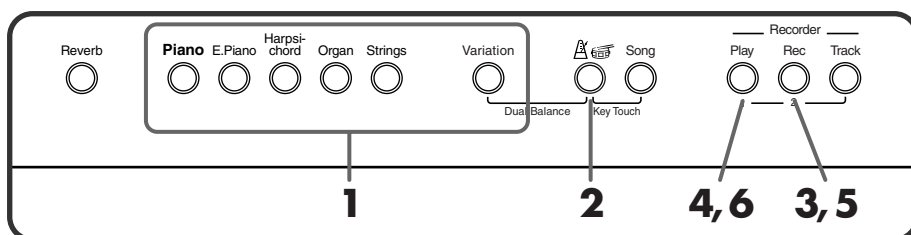
もう一度 [Play (再生)] ボタンを押すと、演奏が止まります。

ご注意

録音した曲を消さずに重ねて録音する場合、曲のテンポや拍子、選択したリズムは、最初に録音した設定で記録されます。新しい演奏を録音するときは、先に録音した演奏を消去 (P. 25) してください。

リズムに合わせて録音する

リズム機能を使った演奏を録音します。



ご注意

録音した曲を消さずに重ねて録音する場合、曲のテンポや拍子、選択したリズムは、最初に録音した設定で記録されます。新しい演奏を録音するときは、先に録音した演奏を消去（P. 25）してください。

ご注意

リズムを使って録音した演奏は、メトロノームを鳴らして再生することはできません。

1. 演奏する音色を選びます（P. 15）。

2. リズムを選びます（P. 20）。

リズムのテンポも決めてください。

3. [Rec（録音）] ボタンを押します。

[Rec（録音）] ボタンのランプが点灯、[Play（再生）] ボタンのランプが点滅し、録音待機状態になります。

録音を中止するときは、もう一度 [Rec（録音）] ボタンを押します。

4. [Play（再生）] ボタンを押すか、鍵盤を弾くと、録音が始まります。

[Play（再生）] ボタンを押すと、2 小節のカウント音の後、録音が始まります。[Play（再生）] ボタンを押さずに鍵盤を弾き始めても、録音が始まります。このとき、カウント音は鳴りません。

リズムに合わせて演奏を録音してください。

5. [Rec（録音）] ボタンまたは [Play（再生）] ボタンを押すと、録音が止まります。

[Rec（録音）] ボタンと [Play（再生）] ボタンのランプが消灯します。

録音した演奏を聴く

6. [Play（再生）] ボタンを押します。

もう一度 [Play（再生）] ボタンを押すと、演奏が止まります。

録音した演奏を再生してもリズムが鳴らないときは・・・

[（メトロノーム／リズム）] ボタンがオン（ボタンのランプが点滅）になっていますか？

リズムを使った演奏を再生するときは、[（メトロノーム／リズム）] ボタンをオンにしてください。

曲に合わせて録音する

内蔵曲に合わせて演奏を録音することができます。

F-100 のレコーダーは、右手と左手を別々に録音できるように、2つの録音トラックを持っています。録音トラックは、[Track (トラック)] ボタンを押しながら [1] または [2] ボタンを押して、指定します。

1. [Song (曲)] ボタンを押しながら、録音する曲に対応する鍵を押します。
選んだ曲を再生します。
2. もう一度 [Song (曲)] ボタンを押して、曲の再生を止めます。
3. [Song (曲)] ボタンを押しながら、[Rec (録音)] ボタンを押します。
[Song (曲)] ボタンと [Rec (録音)] ボタンのランプが点灯、[Play (再生)] ボタンのランプが点滅します。
必要に応じて、メトロノームを鳴らしてテンポの設定をしてください (P. 17)。
録音を中止するときは、もう一度 [Rec (録音)] ボタンを押します。
4. [Track (トラック)] ボタンを押しながら、[1] または [2] ボタンを押して、録音するトラックを選びます。
左手の演奏を録音するときは [1] ボタン、右手の演奏を録音するときは [2] ボタンを押します。
5. [Play (再生)] ボタンを押すか、鍵盤を弾くと、録音が始まります。
[Play (再生)] ボタンを押すと、2 小節のカウント音の後、録音が始まります。
[Play (再生)] ボタンを押さずに鍵盤を弾き始めても、録音が始まります。このとき、カウント音は鳴りません。
6. [Rec (録音)] ボタンまたは [Play (再生)] ボタンを押すと、録音が止まります。
[Rec (録音)] ボタンと [Play (再生)] ボタンのランプが消灯します。

録音した演奏を聴く

7. [Play (再生)] ボタンを押します。
もう一度 [Play (再生)] ボタンを押すと、演奏が止まります。



曲目については、「内蔵曲一覧」(P. 34) をご覧ください。



リズムと内蔵曲を同時に鳴らすことはできません。



内蔵曲の演奏パートを選ぶときは、一度内蔵曲を再生してから操作してください。



[Track (トラック)] ボタンを押したときの [1] [2] ボタンのランプの点灯

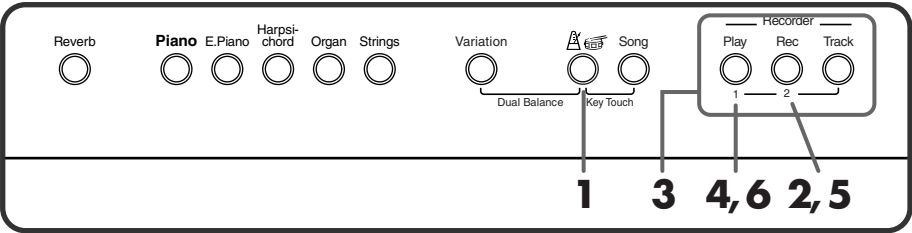
消灯 	録音しない 録音データなし
点灯 	録音しない 録音データあり
点滅 	録音する



弱起 (アウフタクト) の曲 (1 拍目以外で始まる曲) を録音するときは、1 小節のカウント音の後、録音が始まります。

トラックを選んで録音をやり直す

録音をやり直したいとき、特定のトラックだけ録音し直すことができます。



1. 必要に応じて、メトロノームやリズムを鳴らします (P. 17)。

2. [Rec (録音)] ボタンを押します。

[Rec (録音)] ボタンのランプが点灯します。

[Track (トラック)] ボタンを押すと、前回録音したトラック・ボタンのランプが点滅します。

3. [Track (トラック)] ボタンを押しながら、[1] または [2] ボタンを押して、録音するトラックを選びます。

4. [Play (再生)] ボタンを押すか、鍵盤を弾くと、録音が始まります。

[Play (再生)] ボタンを押すと、2 小節のカウント音の後、録音が始まります。

[Play (再生)] ボタンを押さずに鍵盤を弾き始めても、録音が始まります。このとき、カウント音は鳴りません。

5. [Play (再生)] または [Rec (録音)] ボタンを押すと、録音が止まります。

[Play (再生)] と [Rec (録音)] ボタンのランプが消灯します。

指定したトラック・ボタンに演奏が録音されました。

もう片方のトラックに演奏を録音するときは、操作 2 に戻って録音を繰り返します。すでに録音した演奏を聴きながら録音することができます。

録音した演奏を聴く

6. [Play (再生)] ボタンを押します。

もう一度 [Play (再生)] ボタンを押すと、再生が止まります。

ご注意

録音した曲を消さずに重ねて録音する場合、曲のテンポや拍子、選択したリズムは、最初に録音した設定で記録されます。

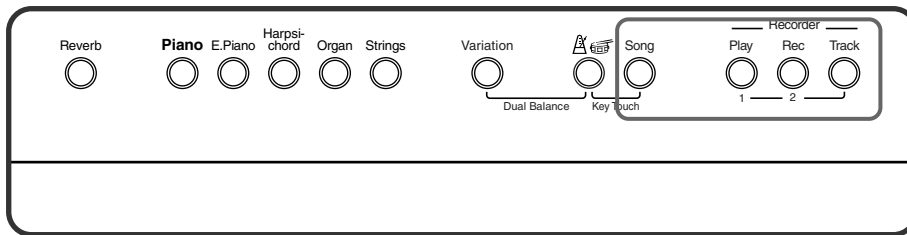
メモ

[Track (トラック)] ボタンを押したときの [1] [2] ボタンのランプの点灯

消灯 ●	録音しない 録音データなし
点灯 ●	録音しない 録音データあり
点滅 ●	録音する

録音した演奏を消去する

録音した演奏を消去します。



■ 指定したトラックの演奏を消去する

録音トラックを選んで消去します。

1. [Track (トラック)] ボタンを押したまま、[1] または [2] ボタンを押し、そのまましばらく押し続けます。

数秒間ボタンを押し続けると、[Song (曲)] ボタン、[1] と [2] ボタンのランプが一瞬点滅し、選んだトラックの演奏が消去されます。

■ 曲を消去する

録音した曲を消去します。

1. [Track (トラック)] ボタンを押したまま、[Song (曲)] ボタンを押し、そのまましばらく押し続けます。

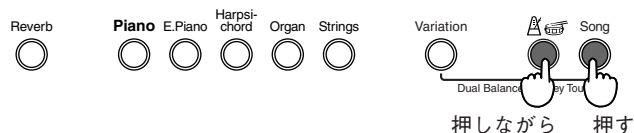
数秒間ボタンを押し続けると、[Song (曲)] ボタン、[1] と [2] ボタンのランプが一瞬点滅し、録音した演奏が消去されます。

便利な機能

鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤のタッチ感を変えます。

電源を入れたときは、「標準」に設定されています。



1. [メトロノーム／リズム] ボタンを押しながら [Song (曲)] ボタンを押します。
[メトロノーム／リズム] ボタン、[Song (曲)] ボタンと現在選んでいる値の音色ボタンが点滅します。
2. いずれかの音色ボタンを押します。
押したボタンのランプが点滅します。

音色ボタン	タッチ感	解説
Piano	固定	鍵盤を弾く強さに関係なく、一定の音量で鳴らします。
E.Piano	軽い	通常より弱いタッチでフォルテシモ (ff) が出せるので、鍵盤が軽くなったように感じられます。力の弱いお子様でも演奏しやすい設定です。
Harpsichord	標準	通常の設定で、最も自然なタッチで弾けます。アコースティック・ピアノに一番近いタッチです。
Organ	重い	通常より強いタッチで弾かないとフォルテシモ (ff) が出せなくなるので、鍵盤が重くなったように感じられます。ダイナミックに弾くときにさらに感情が込められます。

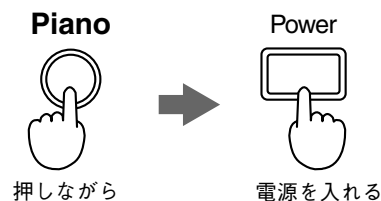
※ この操作では、[Strings] ボタンは使用しません。

3. [メトロノーム／リズム] ボタンまたは [Song (曲)] ボタンを押します。
ボタンのランプが元の状態に戻ります。

ボタンが効かないようにする (パネル・ロック)

パネル・ロックを行なうと、すべてのボタンが効かなくなり、鍵盤を弾くとグランドピアノの音色が鳴ります。

ピアノ演奏をしたいときに、設定が変わらないので便利です。



1. [Volume (音量)] つまみで音量を最小にして、電源を切ります。
2. [Piano (ピアノ)] ボタンを押しながら、[Power (電源)] スイッチを押して電源を入れます。
3. 適当な音量に調節します。

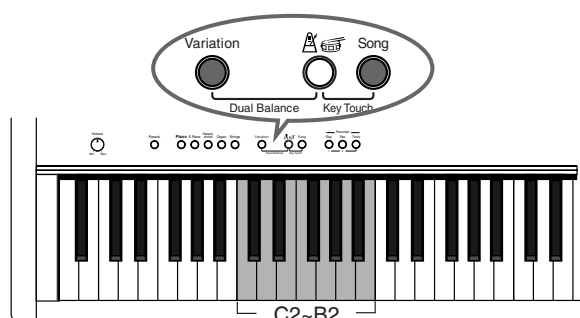
鍵盤を弾くとグランドピアノの音色が鳴ります。他の音色に変えることはできません。

パネル・ロックを解除するには、もう一度、音量を最小にして、電源を入れなおしてください。

弾く鍵の位置を変えずに移調する (キー・トランスポーズ)

自分が弾く鍵盤の位置を変えずに、移調して演奏することができます。

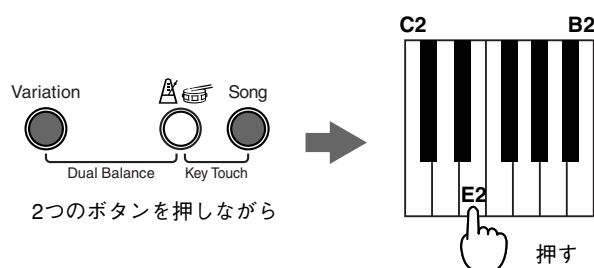
このような機能を「キー・トランスポーズ」といいます。
歌の伴奏をするときなど、歌う人の声の高さに合わせて
キー・トランスポーズを行えば、楽譜（弾く位置）はそのまま
簡単に移調することができます。
この設定は電源を切るまで有効です。



1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、移調したい調の主音にあたる鍵を押します。
C2～B2 の鍵で主音を選びます。
2. 元に戻すときは、[Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、C2 の鍵（ハ長調の主音）を押します。

<例>

例えば、C（ド）の鍵を弾いて、E（ミ）の音をだすようにするには、[Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、E2 の鍵を押します。



ご注意

この設定はF-100 の鍵盤で演奏する音だけに有効です。外部からのMIDI 信号でF-100 を鳴らした音にはキー・トランスポーズは効きません。

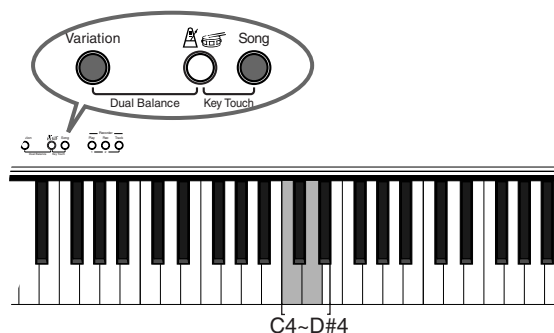
音の高さを調節する (マスター・チューニング)

他の楽器とアンサンブルするときなど、F-100 の基準ピッチを他の楽器に合わせることができます。基準ピッチとは、一般的に A4 の鍵を弾いたときの音の高さのことをいいます。

他の楽器とアンサンブルするときには、きれいなアンサンブルにするために、お互いの基準ピッチを合わせます。
他の楽器と基準ピッチを合わせることを、「チューニング」といいます。

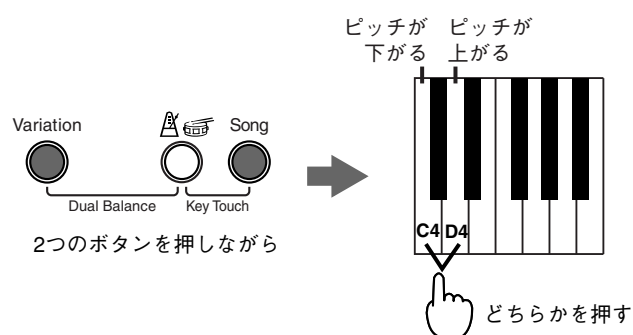
F-100 の基準ピッチは、415.3 Hz～466.2 Hz の範囲で変えることができます。

電源を入れたときは、440.0 Hz に設定されています。



■ 基準ピッチを上げる／下げる

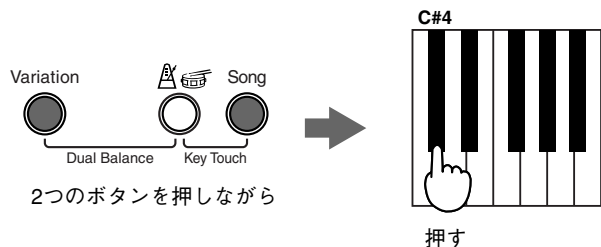
1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、基準ピッチを下げるときは「C4」、基準ピッチを上げるときは「D4」の鍵を押します。



C4 の鍵を 1 回押すごとにピッチは 0.1 Hz 下がります。
また、鍵を押し続けると連続してピッチが下がります。
D4 の鍵を 1 回押すごとにピッチは 0.1 Hz 上がります。
また、鍵を押し続けると連続してピッチが上がります。

■ 基準ピッチを 440.0 Hz にする

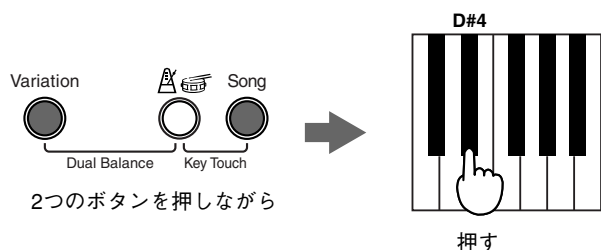
1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、「C#4」の鍵を押します。



基準ピッチを 440.0 Hz にします。最も標準的な設定です。A4 の鍵が 440.0 Hz で鳴ります。

■ 基準ピッチを 442.0 Hz にする

1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、「D#4」の鍵を押します。



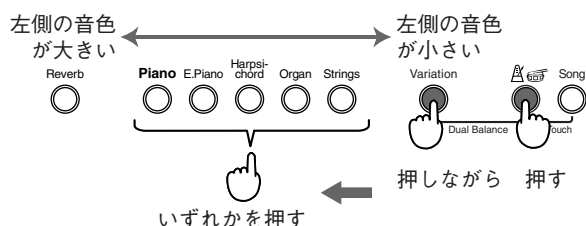
基準ピッチを 442.0 Hz にします。コンサートで使用するピアノに比較的多い設定です。A4 の鍵が 442.0 Hz で鳴ります。

デュアル演奏の音量バランスを変える

デュアル演奏 (P. 16) のとき、重ねた 2 つの音色の音量バランスを変えることができます。

電源を入れたときは、選んでいる 2 つの音色のうち、左側の音色ボタンの音が大きく聞こえる設定になります。

この設定は電源を切るまで有効です。



1. [Variation (バリエーション)] ボタンを押しながら [A (メトロノーム/リズム)] ボタンを押します。

[Variation (バリエーション)] ボタン、[A (メトロノーム/リズム)] ボタンと現在選んでいる値の音色ボタンが点滅します。

2. いずれかの音色ボタンを押します。

押したボタンのランプが点滅します。

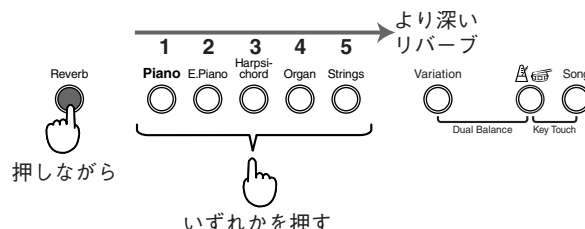
音色ボタン	解説
Piano	選んでいる 2 つの音色うち、左側の音色ボタンの音が大きく聞こえます。
E.Piano	選んでいる 2 つの音色うち、左側の音色ボタンの音がやや大きく聞こえます。
Harpsichord	選んでいる 2 つの音色が同じ大ききで鳴ります。
Organ	選んでいる 2 つの音色うち、左側の音色ボタンの音がやや小さく聞こえます。
Strings	選んでいる 2 つの音色うち、左側の音色ボタンの音が小さく聞こえます。

3. [Variation (バリエーション)] ボタンまたは [A (メトロノーム/リズム)] ボタンを押します。
ボタンのランプが元の状態に戻ります。
[Song (曲)] ボタンを押しても、元の状態に戻ります。

リバーブ効果の深さを変える

リバーブ効果 (P. 17) の深さを 5 段階で変えることができます。

電源を入れたときは、「3」に設定されています。



1. [Reverb (リバーブ)] ボタンを押しながら、いずれかの音色ボタンを押します。

■ リバーブ効果の深さを確認する

1. [Reverb (リバーブ)] ボタンを押し続けます。

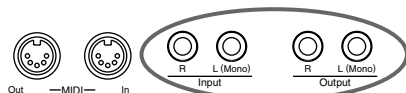
選んでいる深さに対応した音色ボタンのランプが点滅します。

オーディオ機器との接続

F-100 とオーディオ機器を接続してお使いの方は、この章をお読みください。

F-100 とオーディオ機器を接続すると、F-100 の音をオーディオ機器のスピーカーで鳴らしたり、カセット・テープ等に演奏を録音したりすることができます。

接続端子について



Output（アウトプット）端子

オーディオ・ケーブル（別売）でオーディオ機器などに接続して、F-100 の音を接続した機器のスピーカーから鳴らしたり、カセット・テープ等に演奏を録音したりすることができます。

Input（インプット）端子

オーディオ・ケーブル（別売）で他の音源機器と接続して、F-100 のスピーカーから他の音源機器の音を鳴らすことができます。

接続のしかた

ご注意

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

1. 接続する機器と、F-100 の音量を最小にします。
2. 両方の機器の電源を切ります。
3. 接続する機器と F-100 を、オーディオ・ケーブル（別売）で接続します。

ご注意

接続する機器がモノラルの時には F-100 の L（Mono）端子に接続します。このとき、F-100 の R 端子には接続しないでください。

ご注意

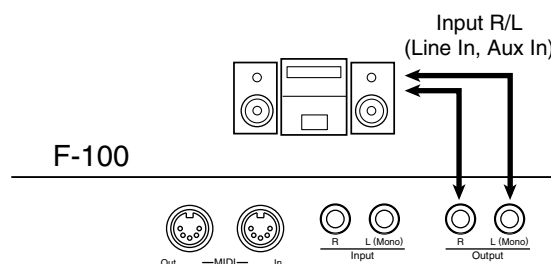
接続には、当社ケーブル（PCS シリーズなど）をご使用ください。他社製の接続ケーブルをご使用になる場合は、次の点にご注意ください。

接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。本機との接続には、抵抗入りのケーブルを使用しないでください。音が極端に小さくなったり、全く聞こえなくなる場合があります。ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。

ご注意

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

■ F-100 の音をオーディオ機器のスピーカーから鳴らしたり、カセット・テープ等に演奏を録音するとき

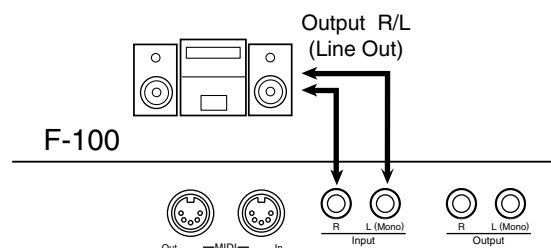


1. F-100 の電源を入れます。
2. 接続する機器の電源を入れます。
3. 適当な音量に調節します。

録音のしかた

1. 接続したオーディオ機器で録音を始めます。
2. F-100 で演奏します。
3. 演奏が終了したら、オーディオ機器の録音を止めます。

■ オーディオ機器の音を F-100 のスピーカーで鳴らすとき



1. 接続する機器の電源を入れます。
2. F-100 の電源を入れます。
3. 適当な音量に調節します。

ご注意

Input 端子に接続した機器の音量を上げすぎると、耳を痛めるだけでなく、本機のスピーカーなどが破損する恐れがあります。適当な音量でお楽しみください。

MIDI 機器との接続

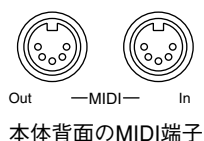
F-100 と外部 MIDI 機器を接続してお使いの方は、この章をお読みください。

F-100 とローランド MT シリーズなどの MIDI シーケンサーを接続すると、演奏を録音することができます。また、MT シリーズの豊富な内部音源の音色を F-100 の鍵盤で鳴らすことができます。

MIDI について

MIDI は「Musical Instrument Digital Interface」の略で、電子楽器やコンピューターの間で演奏情報をやり取りするために作られた統一規格です。F-100 は、外部 MIDI 機器と演奏情報をやり取りするために MIDI 端子を装備しています。この端子を使って外部 MIDI 機器と接続することで、さらに多彩な使いかたができるようになります。

接続端子について



MIDI In（ミディ・イン）端子

MIDI ケーブル（別売）で、外部 MIDI 機器の MIDI Out 端子と接続します。

外部の MIDI 機器から送られてくる MIDI 情報をこの端子へ受信します。MIDI 情報を受信した F-100 は、音を出す、音色を切り替えるなどの動作を行ないます。

MIDI Out（ミディ・アウト）端子

MIDI ケーブル（別売）で外部 MIDI 機器の MIDI In 端子と接続します。

鍵盤を弾く、ペダルを踏むなどといった演奏情報を、この端子から外部の MIDI 機器に送信します。

接続のしかた

ご注意

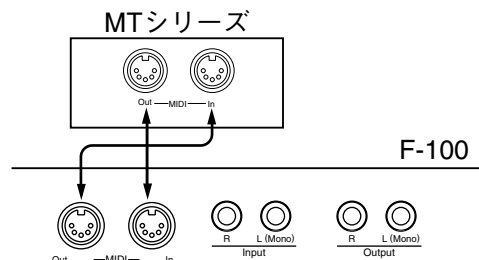
他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

1. 接続する機器と、本機の音量を最小にします。
2. 接続する機器と、本機の電源を切ります。
3. お互いの MIDI 端子を MIDI ケーブル（別売：MSC-15 / 25 / 50）で接続します。
接続例を参照してください。
4. すべての機器の電源を入れます。
5. 適当な音量に調節します。
6. 必要に応じて、MIDI 関連の設定を行ないます。

本機の MIDI 関連の設定のしかたは、P.31 ～ P.32 をご覧ください。

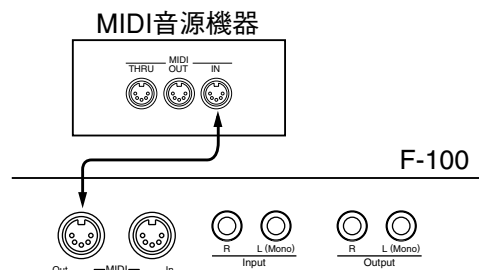
接続例：

MIDI シーケンサー（ローランド MT シリーズ）との接続



※ MT-90s は MIDI Out 端子を装備していません。

接続例：MIDI 音源機器との接続



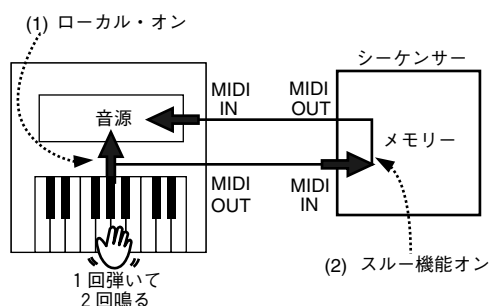
外部 MIDI 機器と接続したときの 注意点

ここでは、F-100 と外部 MIDI 機器を接続したときに注意が必要な、「ローカル・オン/オフ」と「オムニ・オン/オフ」について説明します。

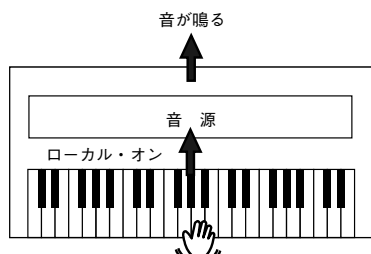
■ F-100 の鍵盤と内部音源を切り離す (ローカル・オン/オフ)

MIDI シーケンサーなどに接続したときには、ローカル・オフに設定してください。

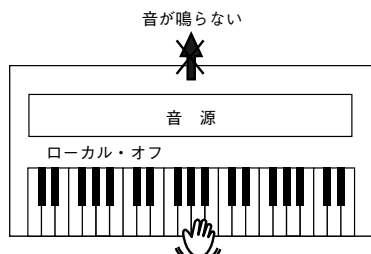
図のように、鍵盤を弾いた情報が (1) と (2) の 2 種類のルートで音源部に渡されると、音が重なって聴こえたり、途切れたりします。これを防ぐため、(1) のルートを切り離すことを「ローカル・オフ」といいます。



ローカル・オンのとき



ローカル・オフのとき



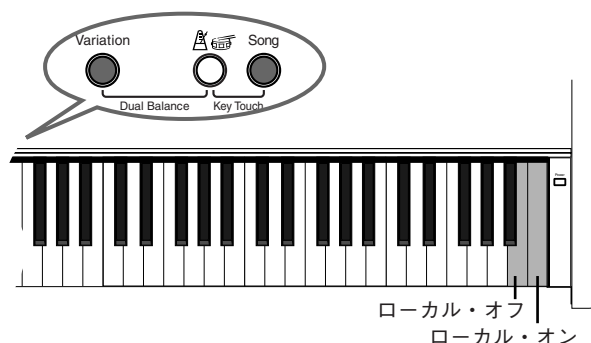
ご注意

外部 MIDI 機器と接続していないときにローカル・オフになっていると、音が出ませんのでご注意ください。

■ ローカル・オン/オフの切り替え

電源を入れたときは、ローカル・オンに設定されています。

1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、オンにするときは「C8」、オフにするときは「B7」の鍵を押します。



→ ローランド MT シリーズ (MT-90s を除く) と接続したときは、ローカル・オフに設定する必要はありません。MT シリーズは、電源を入れたときにローカル・オフの情報を送信します。F-100、MT シリーズの順に電源を入れると、F-100 は自動的にローカル・オフとなります。

■ すべての MIDI チャンネルで受信する (オムニ・オン/オフ)

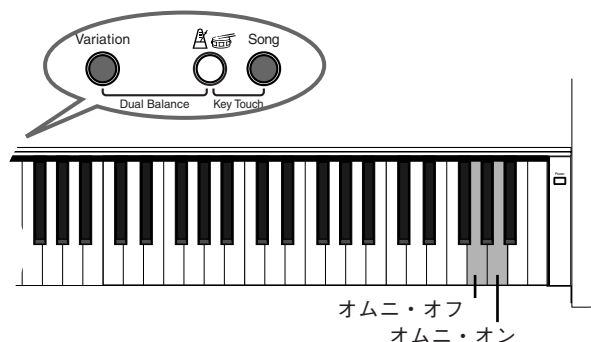
オムニ・オンに設定すると、どの MIDI チャンネルの演奏情報を受信しても、F-100 の音が鳴ります。

オムニ・オフに設定すると、次項目の「MIDI チャンネルの設定」で設定した MIDI チャンネルのみ受信します。

■ オムニ・オン/オフの切り替え

電源を入れたときは、オムニ・オンに設定されています。

1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、オンにするときは「A7」、オフにするときは「G7」の鍵を押します。



■ MIDI チャンネルの設定

MIDI には 1 ～ 16 の MIDI チャンネルというものがあります。通常は、それぞれの機器の MIDI チャンネルが合っていないと音が鳴りません。

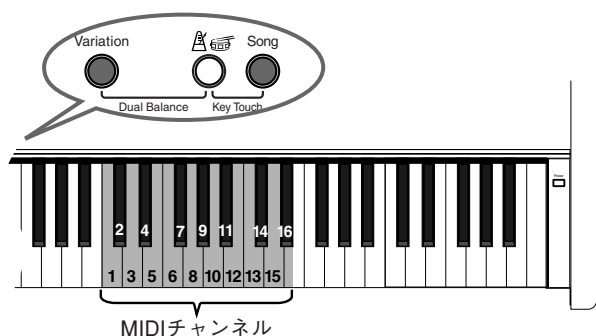
F-100 を演奏して、他の楽器や音源の音を鳴らすときは、F-100 の MIDI チャンネルと、接続している MIDI 機器の受信チャンネルを合わせます。

MIDI キーボードや MIDI シーケンサーを使って F-100 の音を鳴らすときは、F-100 は電源を入れたらオムニ・オン (P.31) に設定されますので、MIDI チャンネルの設定にかかわらず、すべてのチャンネルを受信します。接続している MIDI 機器の特定のチャンネルだけを受信したいときは、F-100 をオムニ・オフにして、MIDI チャンネルを設定してください。

F-100 の MIDI チャンネルは、電源を入れたときは、「1」に設定されています。

1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、チャンネルに対応する鍵 (C5 ～ D#6) を押します。

MIDI 送信チャンネルと受信チャンネルが、鍵に対応する番号に切り替わります。

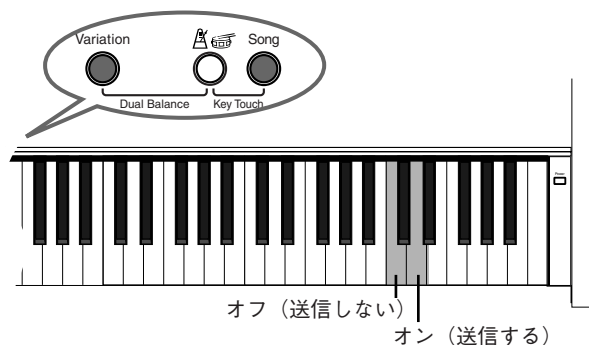


■ 録音した演奏を送信する

F-100 で録音した演奏を外部 MIDI 機器やコンピューターに送信したいときは、この設定をオンにします。オフのときは、送信しません。

電源を入れたときは、オフに設定されています。

1. [Variation (バリエーション)] ボタンと [Song (曲)] ボタンを押しながら、オンにするときは「D7」、オフにするときは「C7」の鍵を押します。



録音した演奏を MT シリーズ (MT-90s を除く) などの MIDI シーケンサーで保存しておきたいときは、次のようにしてください。

このとき、外部 MIDI シーケンサーは、MIDI スルーの設定をオフにしてください。詳しくは、お持ちの MIDI シーケンサーの取扱説明書をご覧ください。

1. MT シリーズなどの MIDI シーケンサーを、あらかじめ接続しておきます (P.30)。
2. 本機で演奏を録音します (P.21)。
3. この設定をオンにします。
4. 接続した MIDI シーケンサーで録音を始めます。
5. 本機で録音した演奏を再生します。
6. 再生が終了したら、MIDI シーケンサーの録音を止めます。
7. 接続した MIDI シーケンサーでフロッピー・ディスクなどに保存を行ないます。

故障かな？と思ったら

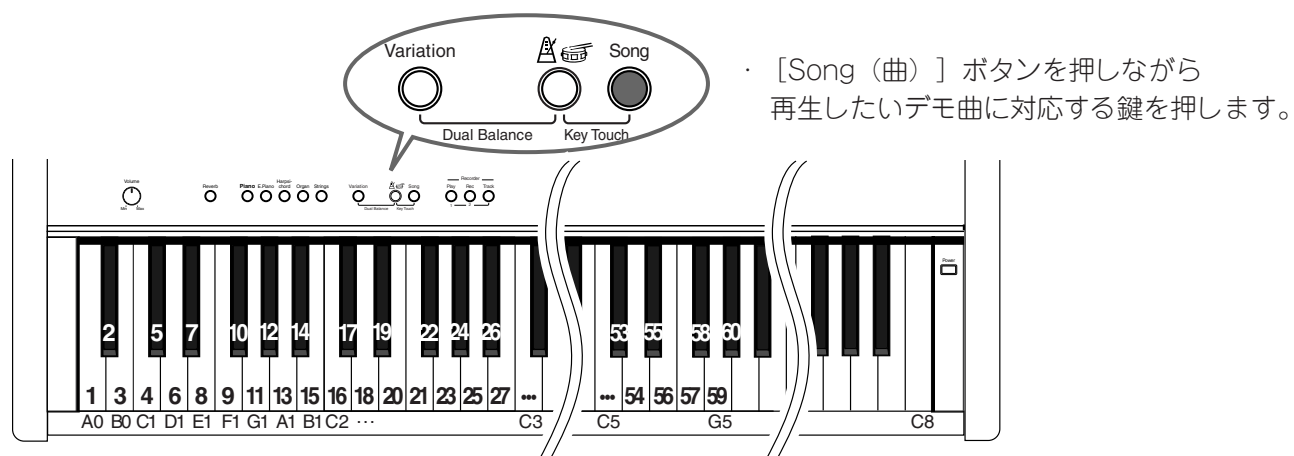
故障かな？と思ったらときは、まずお読みください。

現象	確認事項／対処
電源が入らない	ACアダプターが正しく接続されていますか。(P.10)
音が出ない	音量が最小になっていませんか。(P.12)
	ヘッドホンをつないでいませんか。(P.12)
	ローカル・オフになっていませんか。(P.31)
	スピーカー・ケーブルが正しく接続されていますか？(P.6)
デュアル演奏のとき、1つの音色しか鳴らない	音量バランスの設定と選んでいる音色によっては、重ねている音が聞こえにくいことがあります。音量バランスを調節してください。(P.28)
内蔵曲が鳴らない	パネル・ロックしていませんか。(P.26)
ボタンが効かない	
鍵盤の音色が変わらない	
鍵盤を弾くと、2種類の音が同時に鳴る	デュアル演奏の状態になっていませんか。(P.16)
デュアル演奏にすると、選んでいた音色が変わる	音色番号3、4が選ばれている音色ボタンでデュアル演奏にすると、その音色ボタンには、音色番号1が選ばれます。(P.15)
鍵盤や曲の音程、ピッチがずれている	マスター・チューニングの設定は適切ですか。(P.27)
	キー・トランスポーズの設定は適切ですか。(P.27)
内蔵曲が再生できない／片手の演奏が聞こえない	[Track (トラック)] ボタンを押したとき、[1]／[2] ボタンのランプが消灯していませんか？(P.14) ランプが消灯しているトラック・ボタンの音は鳴りません。[Track (トラック)] ボタンを押しながら、[1] または [2] ボタンを押して、ランプを点灯させてください。
リズムが鳴らない	内蔵曲の再生中や録音中は、リズムは鳴りません。
	メトロノームを使って録音した演奏を再生するときは、リズムは鳴りません。
メトロノームが鳴らない	パネル・ロックしていませんか。(P.26)
	リズムを使って録音した演奏を再生するときは、メトロノームは鳴りません。
	リズムが選ばれていると、ボタンを押してもメトロノームは鳴りません。メトロノームの拍子を選び直してください。(P.19)
録音した曲やメトロノームのテンポがおかしい	曲の途中でテンポが変わる内蔵曲を選んで録音したときは、録音した演奏も同じようにテンポが変わります。 また、メトロノームのテンポも同じように変わります。
	録音した曲を消さずに録音する場合、曲のテンポは最初に録音したテンポで記録されます。先に録音した曲を消去してから録音し直してください。(P.25)
録音した演奏が消えてしまった	本体の電源を切ると、録音した演奏は消えてしまいます。消えてしまった演奏は、復元できません。

現象	確認事項／対処
音がひずむ	音量を上げすぎると音がひずむことがあります。[Volume (音量)] つまみで、音量を調節してください。(P.12)
高音部で、ある鍵盤から音が急に変わる	アコースティック・ピアノでは、高音部の1.5 オクターブ程度の範囲はダンパー・ペダルに関係なく音が最後まで伸びます。また音色も違ってきます。ローランド・ピアノはアコースティック・ピアノのこのような動作を忠実に再現しています。また、本機では、ダンパー・ペダルの影響を受けない範囲はキー・トランスポーズの設定によって変化します。
「キーン」という音がする	ヘッドホンで聴こえる場合： きらびやかで粒立ちがはっきりしている一部のピアノ音色では、高調波成分が多く含まれているため、金属的な響きが加わって聞こえることがあります。これはピアノ本来の特徴を忠実に再現しているためで、故障ではありません。この響きは、リバーブ効果を深くしたときにより耳につきやすくなりますので、リバーブ効果を浅くすることで減少する場合があります。 ヘッドホンで聴こえない場合： 別の原因（本体の共鳴など）が考えられます。お買い上げ店または最寄りのローランド・サービスにお問い合わせください。
低音部の音がおかしい／ビリビリと共鳴する	ヘッドホンで聴こえない場合： 大きな音で演奏するとピアノ本体やピアノ付近のものが共鳴することがあります。部屋の蛍光灯やガラス戸などが共鳴することもあります。特に低音鍵になるほど、音量が大きいくほど起こりやすくなります。共鳴を抑えるには、次のことにご注意ください。 ・壁などから10～15cm離して設置する。 ・音量を抑える。 ・共鳴している器具などから遠ざける。 ・鍵盤フタを本体から遠ざける。 ヘッドホンで聴こえる場合： 別の原因が考えられます。お買い上げ店または最寄りのローランド・サービスにお問い合わせください。
ペダルが効かない／効きっぱなしになる	ペダルが正しく接続されていますか。(P.10)
＜外部機器と接続しているとき＞	
音が出ない	すべての機器の電源がオンになっていますか。
	正しく接続されていますか。(P.29、P.30)
	MIDI チャンネルの設定は適切ですか。(P.32)
	オムニ・オン／オフの設定は正しいですか。(P.31)
演奏するときの音がおかしい／音が2度鳴る	シーケンサー側でスルー機能がオンになっていると、音が2度鳴ったり途切れたりすることがあります。シーケンサーと接続して使用するときは、本機をローカル・オフにしてください。(P.31)
Input 端子に接続した機器の音量が小さい	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか。抵抗の入っていない接続ケーブル（ローランド：PCS シリーズなど）をご使用ください。

内蔵曲一覧

→ 詳しくは、「内蔵曲を聴いてみましょう」(P.13)をご覧ください。



No.	鍵盤	曲名	作曲者	著作権
1	A0	アラベスク 第 1 番	C. ドビュッシー	© 1995 Roland Corporation
2	Bb0	ピアノ・ソナタ 第 15 番 第 1 楽章	W. A. モーツァルト	© 1996 Roland Corporation
3	B0	ジムノパディ 第 1 番	E. サティ	© 1997 Roland Corporation
4	C1	ゴリウォッグのケーキ・ウォーク	C. ドビュッシー	© 1995 Roland Corporation
5	Db1	愛の夢 第 3 番	F. リスト	© 2001 Roland Corporation
6	D1	おまえが欲しい	E. サティ	© 1997 Roland Corporation
7	Eb1	別れの曲	F. ショパン	© 2001 Roland Corporation
8	E1	月の光	C. ドビュッシー	© 1998 Roland Corporation
9	F1	小犬のワルツ	F. ショパン	© 2001 Roland Corporation
10	F#1	幻想即興曲	F. ショパン	© 2001 Roland Corporation
11	G1	美しく青きドナウ	J. シュトラウス	© 1996 Roland Corporation
12	Ab1	歌の翼に	F. メンデルスゾーン	© 1996 Roland Corporation
13	A1	マズルカ 第 5 番	F. ショパン	© 1995 Roland Corporation
14	Bb1	牧童 (エオリアのハープ)	F. ショパン	© 1995 Roland Corporation
15	B1	黒鍵のエチュード	F. ショパン	© 2001 Roland Corporation
16	C2	グラドゥス - アド - パルナッスム博士	C. ドビュッシー	© 1995 Roland Corporation
17	Db2	華麗なる大円舞曲	F. ショパン	© 1995 Roland Corporation
18	D2	乙女の祈り	T. バダジェフスカ	© 1996 Roland Corporation
19	Eb2	トロイカ	P. チャイコフスキー	© 1996 Roland Corporation
20	E2	春に寄す	E. グリーク	© 1996 Roland Corporation
21	F2	ワルツ 作品 64 の 2	F. ショパン	© 1996 Roland Corporation
22	F#2	ラデツキー行進曲	J. シュトラウス	© 1996 Roland Corporation
23	G2	トロイメライ	R. シューマン	© 1996 Roland Corporation
24	Ab2	楽興の時 第 3 番	F. シューベルト	© 1996 Roland Corporation
25	A2	雨だれの前奏曲	F. ショパン	© 1996 Roland Corporation
26	Bb2	調子のよい鍛冶屋	G. ヘンデル	© 1996 Roland Corporation
27	B2	ハンガリア舞曲 第 5 番	J. ブラームス	© 1996 Roland Corporation
28	C3	トルコ行進曲	L. v. ベートーベン	© 1996 Roland Corporation

No.	鍵盤	曲名	作曲者	著作権
29	Db3	ノクターン 第2番	F. ショパン	© 1996 Roland Corporation
30	D3	春の歌	F. メンデルスゾーン	© 1996 Roland Corporation
31	Eb3	前奏曲	J. S. バッハ	© 1996 Roland Corporation
32	E3	狩の歌	F. メンデルスゾーン	© 1996 Roland Corporation
33	F3	古風なメヌエット	M. ラヴェル	© 1996 Roland Corporation
34	F#3	エリーゼのために	L. v. ベートーベン	© 1996 Roland Corporation
35	G3	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト	© 1996 Roland Corporation
36	Ab3	セレナード	F. シューベルト	© 1996 Roland Corporation
37	A3	ユモレスク	A. ドボルザーク	© 1996 Roland Corporation
38	Bb3	花の歌	G. ランゲ	© 1996 Roland Corporation
39	B3	アルプスの鐘	T. オースティン	© 1996 Roland Corporation
40	C4	メヌエット ト長調	L. v. ベートーベン	© 1996 Roland Corporation
41	Db4	ベニスの舟歌	F. メンデルスゾーン	© 1996 Roland Corporation
42	D4	アルプスの夕ばえ	T. オースティン	© 1996 Roland Corporation
43	Eb4	さらばピアノよ	L. v. ベートーベン	© 1996 Roland Corporation
44	E4	婚礼の合唱	W. ワーグナー	© 1996 Roland Corporation
45	F4	ウォータールーの戦い	W. アンダーソン	© 1996 Roland Corporation
46	F#4	ウィンナ・マーチ	C. ツェルニー	© 1996 Roland Corporation
47	G4	かっこう	L. C. ダカン	© 1996 Roland Corporation
48	Ab4	メヌエット ト長調	J. S. バッハ	© 1992 Roland Corporation
49	A4	紡ぎ歌	A. エルメンライヒ	© 1996 Roland Corporation
50	Bb4	ガヴォット	F. ゴセック	© 1996 Roland Corporation
51	B4	のばら	G. ランゲ	© 1996 Roland Corporation
52	C5	ジブシーの踊り	H. リヒナー	© 1996 Roland Corporation
53	Db5	金婚式	G. マリー	© 1996 Roland Corporation
54	D5	クシコス・ポスト	H. ネッケ	© 1996 Roland Corporation
55	Eb5	お人形の夢と目ざめ	T. オースティン	© 1996 Roland Corporation
56	E5	すみれ	L. ストリーボック	© 1996 Roland Corporation
57	F5	楽しい農夫	R. シューマン	© 1996 Roland Corporation
58	F#5	ソナチネ 作品 36 の 1 第 1 楽章	M. クレメンティ	© 1996 Roland Corporation
59	G5	ソナチネ 作品 20 の 1 第 1 楽章	F. クーラウ	© 1996 Roland Corporation
60	Ab5	ソナチネ 第 5 番 第 1 楽章	L. v. ベートーベン	© 1996 Roland Corporation

※ これらの内蔵曲を個人で楽しむ以外に、権利者の許諾なく使用することは法律で禁じられています。

MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション...	送 信	受 信	備 考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード 1 × *****	モード 1 OMNI ON/OFF	
ノート ナンバー : 音域	15 - 113 *****	0 - 127 15 - 113	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ × 8n v = 64	○ ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド	×	×	
6, 38 7 11 64 コントロール 66 チェンジ 67 91 100, 101	○ × × ○ × ○ ○ ○ ○	○ ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ ○ ○	データ・エントリー ボリューム エクスプレッション ホールド1 ソステヌート ソフト 汎用エフェクト1(リバーブ) RPN LSB, MSB
プログラム チェンジ : 設定可能範囲	○ (0 ... 64) *****	○ (0 - 127) 0 ... 64	
エクスクルーシブ	○	○	
: ソング・ポジション コモン : ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアル : クロック タイム : コマンド	× ×	× ×	
その他 : オール・サウンド・オフ : リセット・オール・コントローラー : ローカル ON/OFF : オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : システム・リセット	× × × × ○ ×	× ○ ○ ○ (123 -127) ○ ×	
備考	*1 MIDIからのノート情報にのみ有効		

モード1: オムニ・オン、ポリ モード2: オムニ・オン、モノ ○: あり
モード3: オムニ・オフ、ポリ モード4: オムニ・オフ、モノ ×: なし

※ この機器のMIDI動作仕様をくわしく説明した「MIDIインプリメンテーション」(別売)があります。プログラミング等で必要な場合は、販売店に注文してください。

主な仕様

F-100：ローランド・デジタル・ピアノ

<鍵盤>

鍵盤

88 鍵盤 PHA（プログレッシブ・ハンマー・アクション
鍵盤）

鍵盤タッチ

軽い、標準、重い、固定

キーボード・モード

フル・キーボード

デュアル（音量バランス設定可能）

<音源>

最大同時発音数

64 音

音色

5 グループ 20 音色

エフェクト

リバーブ（5 段階）

コーラス（E. Piano のみ）

シンパセティック・レゾナンス（Piano のみ）

キー・トランスポーズ

-6 ～ +5（半音単位）

マスター・チューン

415.3Hz ～ 466.2Hz（0.1Hz 単位）

<メトロノーム、リズム>

拍子

0、2、3、4、6

リズム

16 種類

音量調節

5 段階

<レコーダー>

トラック数

2トラック

記憶曲数

1 曲

記憶音数

約 5,000 音

テンポ

4 分音符 = 20 ～ 250

分解能

96 クロック / 4 分音符

コントロール

再生 / 停止、録音、テンポ、全曲再生、トラック選択

<内蔵曲>

60 曲

<その他>

スピーカー

12cm × 2

定格出力

5W × 2

ペダル

ダンパー、ソフト

接続端子

ヘッドホン端子（ステレオ・ミニ・タイプ）× 2

MIDI 端子（イン、アウト）

アウトプット端子（L/Mono、R）

インプット端子（L/Mono、R）

ペダル端子（ダンパー、ソフト）

電源

DC9V（AC アダプター）

消費電力

23W

外形寸法（譜面立ては含みません）

1,337（幅）× 295（奥行）× 772（高さ）mm

質量

39kg

付属品

取扱説明書

テンポ設定シート

保証書

AC アダプター

電源コード（AC アダプター接続用）

譜面立て

鍵盤フタ

鍵盤フタ・ホルダー

ヘッドホン

ユーザー登録カード

別売品

オーディオ・ケーブル

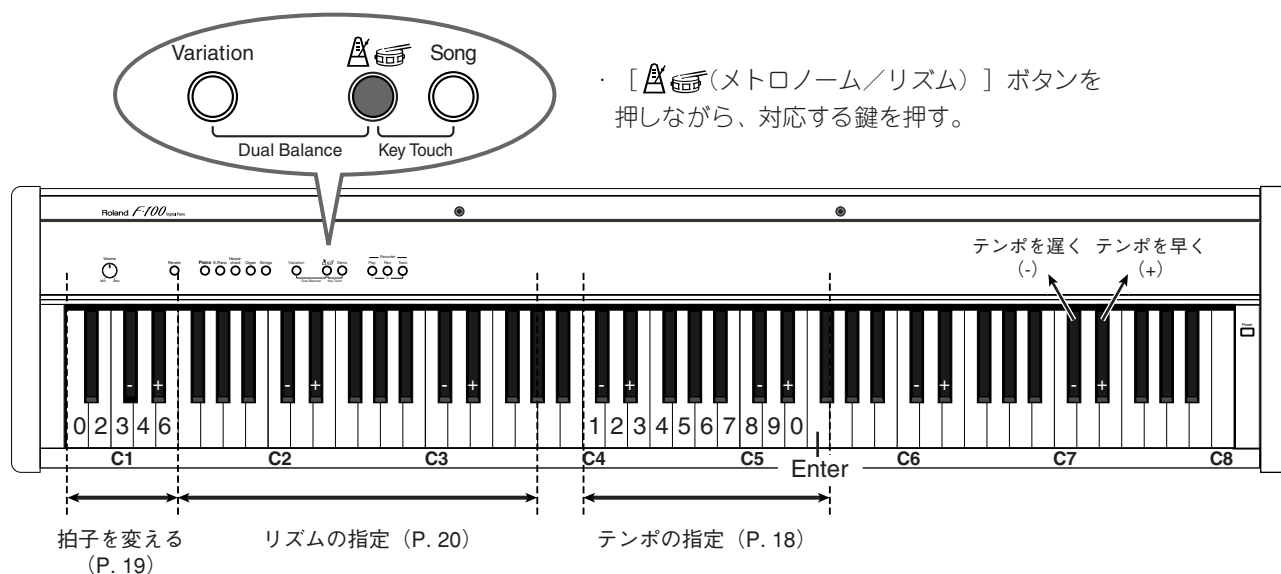
MIDI ケーブル

MIDI インプリメンテーション

※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

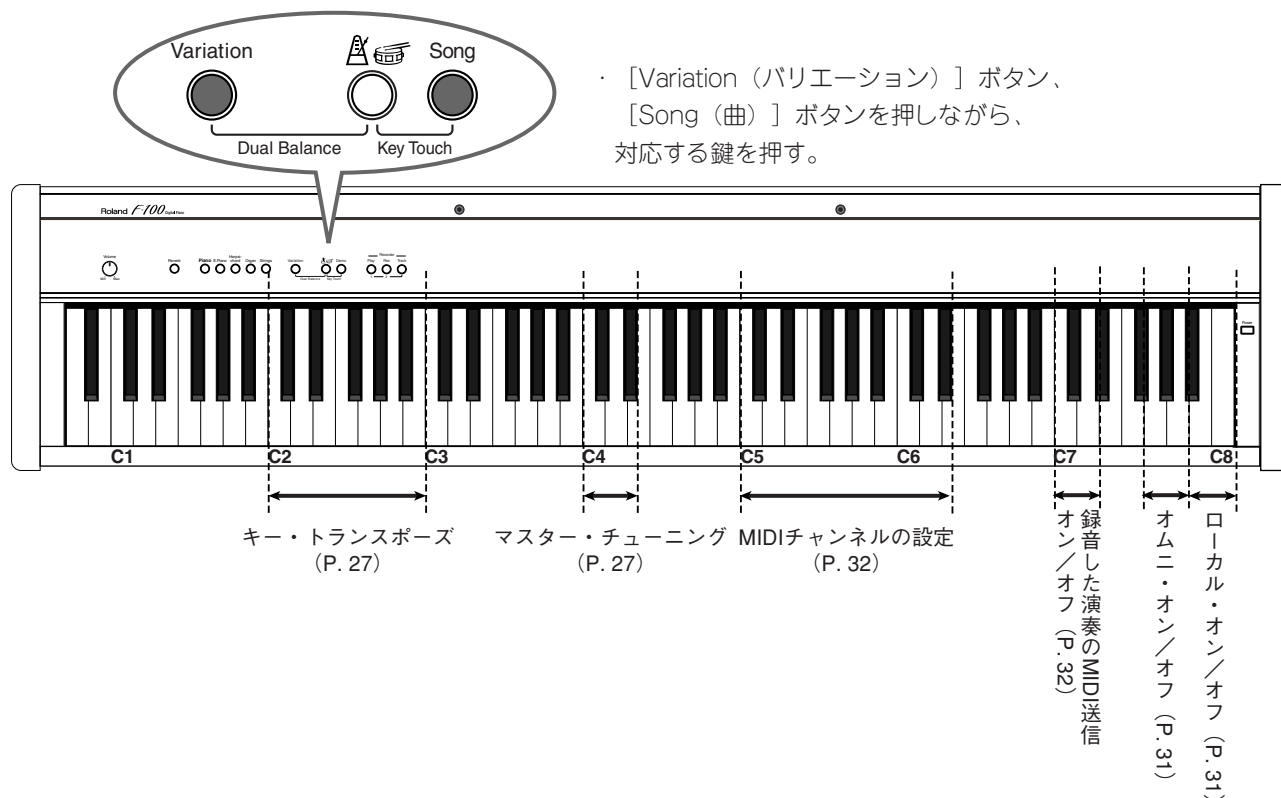
鍵盤に割り当てられた機能一覧

メトロノーム／リズムの設定



・ [A] (メトロノーム／リズム) ボタンを押しながら、対応する鍵を押す。

その他の機能



・ [Variation (バリエーション)] ボタン、
[Song (曲)] ボタンを押しながら、
対応する鍵を押す。

索引

数字

440.0 Hz	28
442.0 Hz	28

A

AC アダプター	10
----------------	----

あ

Output（アウトプット）端子	29
------------------------	----

い

移調	27
Input（インプット）端子	29

お

オーディオ機器	29
オムニ・オン／オフ	31
音色	15
音量	
メトロノーム／リズム	19
全体	12

き

キー・トランスポーズ	27
基準ピッチ	27

く

組み立てかた	6
--------------	---

け

鍵盤のタッチ	26
鍵盤フタ	11

さ

再生	13
片手ずつ	14
すべての曲	13

せ

接続	
オーディオ機器	29
MIDI 機器	30

そ

ソフト・ペダル	10
[Song（曲）] ボタン	13

た

タッチ	26
ダンパー・ペダル	10

ち

チューニング	27
--------------	----

て

デュアル演奏	16
音量バランス	28
電源	12

テンポ	18
テンポ設定シート	8, 18

と

[Track（トラック）] ボタン	14
トラック・ボタン	14
トランスポーズ	27

な

内蔵曲	13, 34
-----------	--------

は

パネル・ロック	26
[Variation（バリエーション）] ボタン	15
[Power（電源）] スイッチ	12

ひ

拍子	19
----------	----

ふ

フタ	11
譜面立て	10

へ

ペダル	10
ヘッドホン	12

ほ

[Volume（音量）] つまみ	12
------------------------	----

ま

マスター・チューニング	27
-------------------	----

み

MIDI	30
録音した演奏を送信	32
MIDI Out（ミディ・アウト）端子	30
MIDI In（ミディ・イン）端子	30
MIDI 機器	30
MIDI チャンネル	32

め

メトロノーム	17
[（メトロノーム／リズム）] ボタン	17

り

リズム	20
リバーブ効果	17
深さを変える	28
[Reverb（リバーブ）] ボタン	17

ろ

ローカル・オン／オフ	31
録音	21
演奏を MIDI に送信する	32
曲に合わせる	23
鍵盤の演奏	21
リズムに合わせる	22

お問い合わせの窓口

<電話> 受付時間：午前10時～午後5時（土、日曜、祝日および弊社規定の休日を除く）

DTM商品の取り扱いに関するお問い合わせ先・・・ローランドDTMホットライン

■ 東京 TEL (03) 3251-5791 ■ 大阪 TEL (06) 6345-9785 ■ 浜松 TEL (053) 414-7005

ビデオ関連商品の取り扱いに関するお問い合わせ先・・・ローランド・ビデオキャンバス・ホットライン

■ 東京 TEL (03) 3251-3429 ■ 大阪 TEL (06) 6345-9789 ■ 浜松 TEL (053) 414-7530

その他の商品の取り扱いに関するお問い合わせ先・・・ローランドお客様相談センター

■ 東京 TEL (03) 3251-6150 ■ 大阪 TEL (06) 6345-9500 ■ 浜松 TEL (053) 414-7120

<住所> 〒433-8118 静岡県浜松市高丘西4-7-19 ローランド浜松流通センター

修理に関するお問い合わせは・・・商品をお求めの販売店か「サービスの窓口」に記載の営業所、またはサービスステーションまでご相談ください。「サービスの窓口」は保証書に同封、もしくは封筒の裏面に記載されています。

※上記窓口の名称、所在地、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

'03. 4. 1 現在

取扱説明書の英語版（有料）をご希望の方は、販売店にお問い合わせください。

If you should require an English Owner's Manual (at a modest fee), please contact an authorized Roland distributor.

この取扱説明書は再生紙を使用しています。